

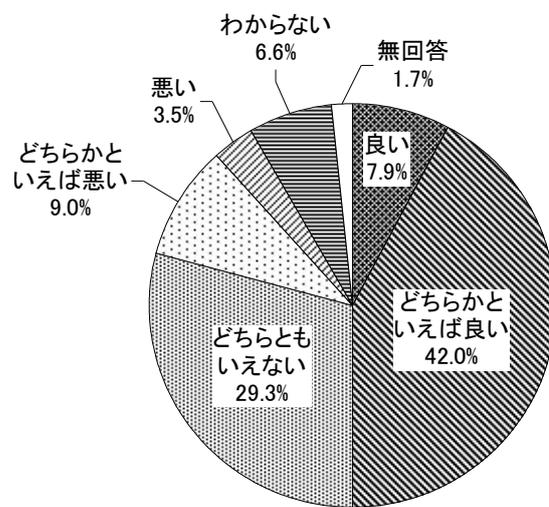
10 犯罪と治安対策について

(1) 県内の治安状況

問33 あなたは、県内の治安についてどう感じますか。次の中から1つ選んでください。

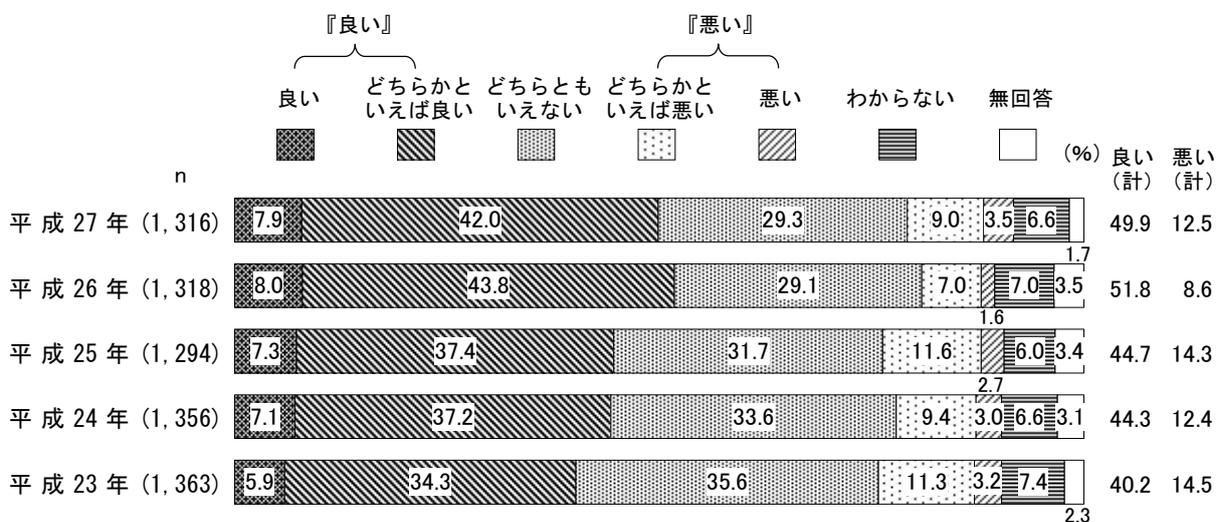
[n=1,316]

1	良い	7.9%	4	どちらかといえば悪い	9.0%
2	どちらかといえば良い	42.0%	5	悪い	3.5%
3	どちらともいえない	29.3%	6	わからない	6.6%
				(無回答)	1.7%



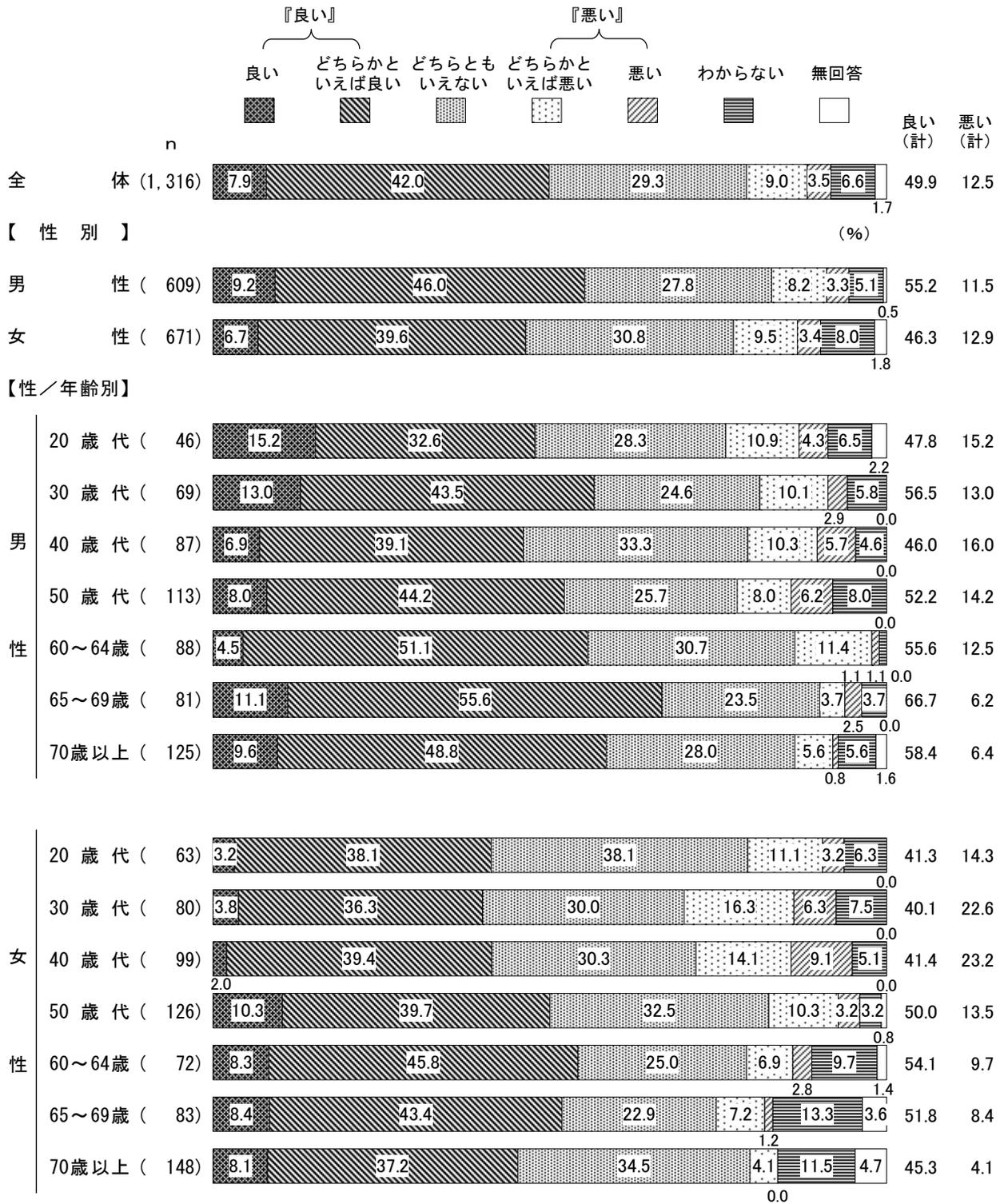
(n=1,316)

全体でみると、「良い」(7.9%)と「どちらかといえば良い」(42.0%)の2つを合わせた『良い』(49.9%)は5割となっている。一方、「どちらかといえば悪い」(9.0%)と「悪い」(3.5%)の2つを合わせた『悪い』(12.5%)は1割を超えている。また、「どちらともいえない」(29.3%)はほぼ3割となっている。



過去の調査結果と比較すると、『良い』は、平成25年以前と比べて高い割合となっている。

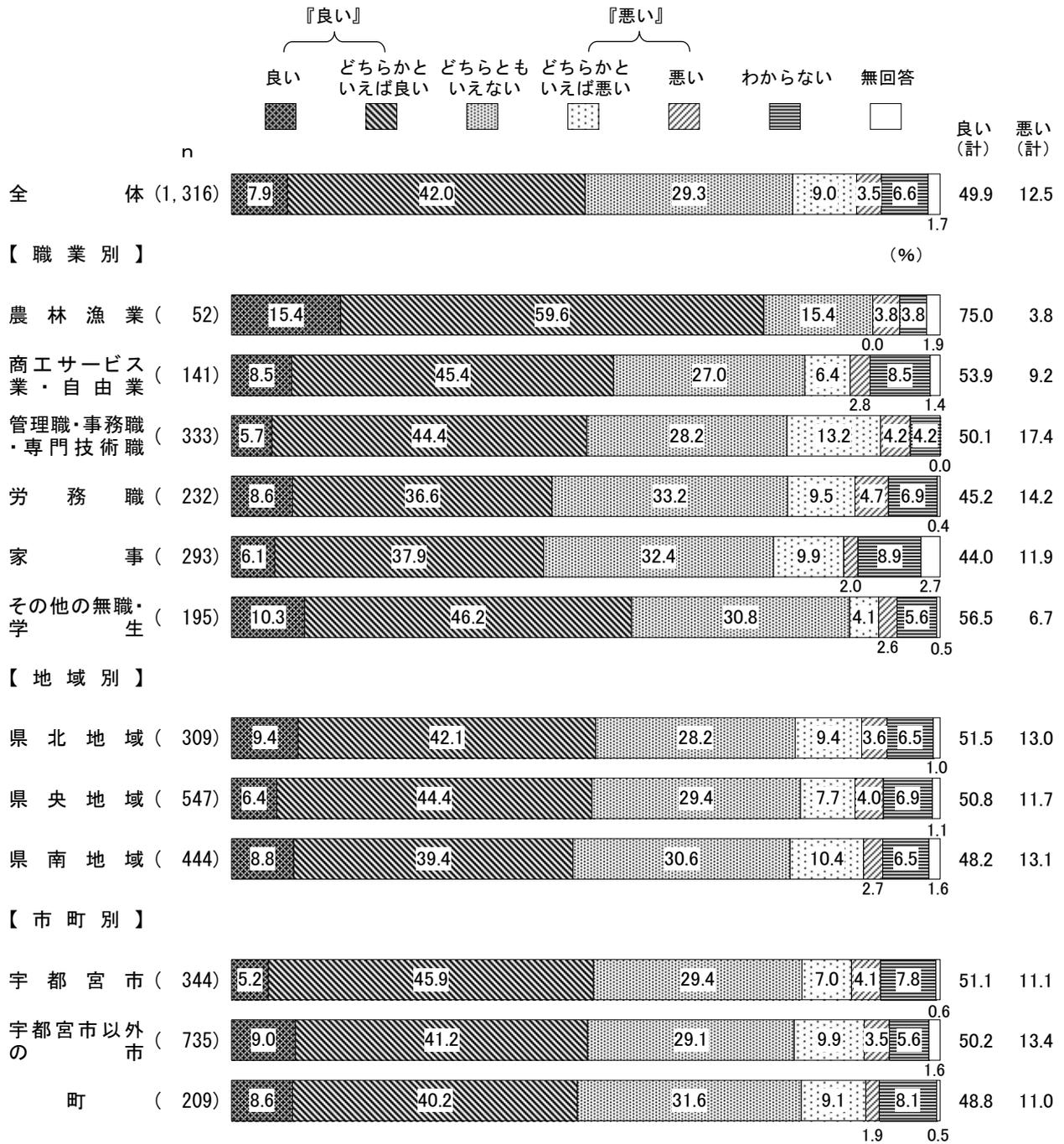
【性別・性／年齢別】



性別で見ると、『良い』では〈男性〉(55.2%)が〈女性〉(46.3%)より8.9ポイント高くなっている。

性／年齢別で見ると、『良い』では〈男性65~69歳〉が66.7%と高くなっている。『悪い』では〈女性40歳代〉が23.2%、〈女性30歳代〉が22.6%と高くなっている。

[職業別・地域別・市町別]



職業別でみると、『良い』では〈農林漁業〉が75.0%と高くなっている。『悪い』では〈管理職・事務職・専門技術職〉が17.4%と高くなっている。

地域別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

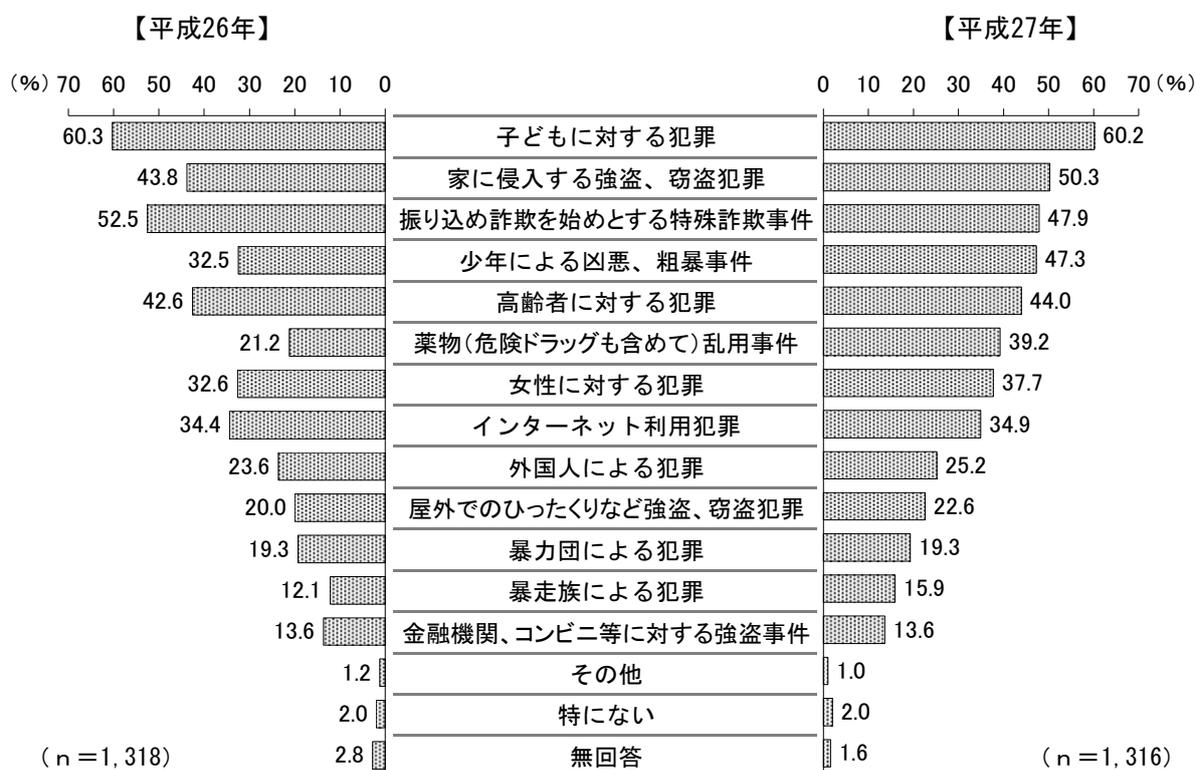
市町別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

(2) 不安を感じる犯罪

問34 あなたは、どのような犯罪に不安を感じますか。次の中からいくつか選んでください。

[n=1,316]

1	子どもに対する犯罪	60.2%	9	暴走族による犯罪	15.9%
2	女性に対する犯罪	37.7	10	家に侵入する強盗、窃盗犯罪	50.3
3	高齢者に対する犯罪	44.0	11	屋外でのひったくりなど強盗、窃盗犯罪	22.6
4	振り込め詐欺を始めとする特殊詐欺事件	47.9	12	薬物（危険ドラッグも含めて）乱用事件	39.2
5	金融機関、コンビニ等に対する強盗事件	13.6	13	インターネット利用犯罪	34.9
6	少年による凶悪、粗暴事件	47.3	14	その他	1.0
7	外国人による犯罪	25.2	15	特にない	2.0
8	暴力団による犯罪	19.3		（無回答）	1.6

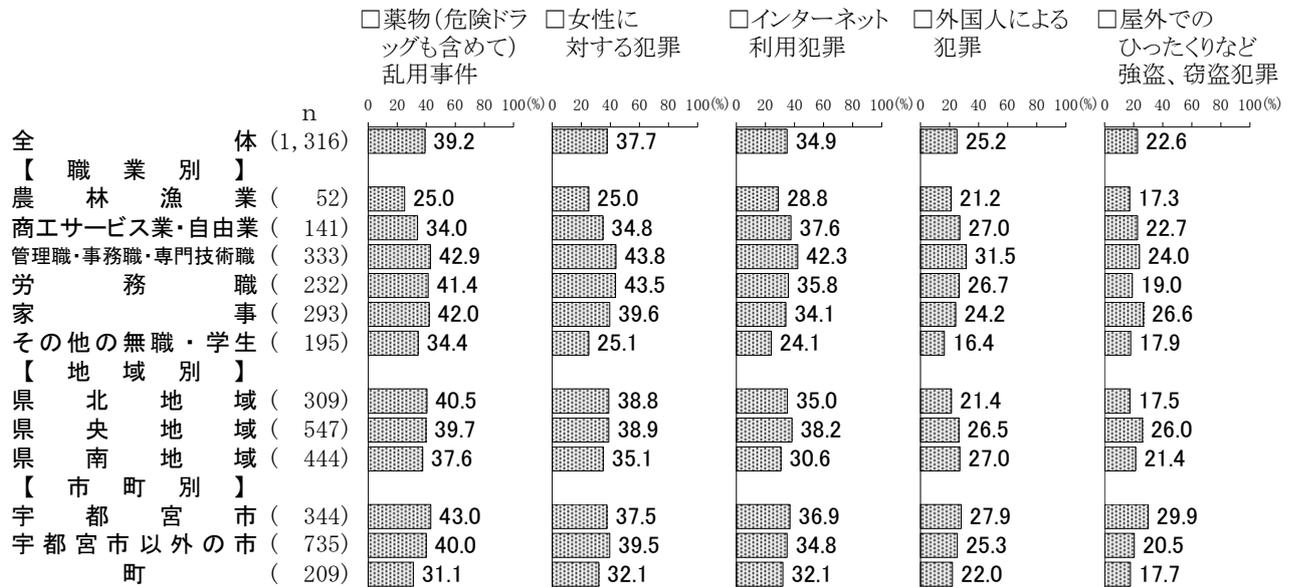
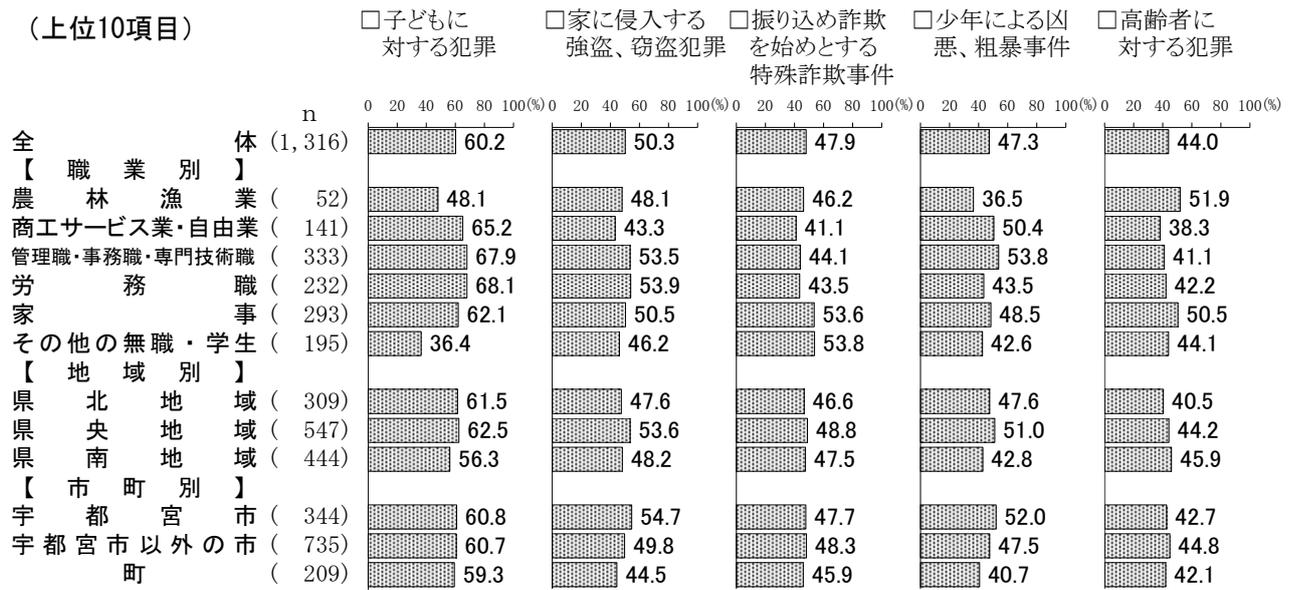


全体で見ると、「子どもに対する犯罪」（60.2%）が6割で最も高く、次いで「家に侵入する強盗、窃盗犯罪」（50.3%）、「振り込め詐欺を始めとする特殊詐欺事件」（47.9%）、「少年による凶悪、粗暴事件」（47.3%）、「高齢者に対する犯罪」（44.0%）の順となっている。

前回（平成26年）の調査結果と比較すると、「薬物（危険ドラッグも含めて）乱用事件」が18.0ポイント、「少年による凶悪、粗暴事件」が14.8ポイント、「家に侵入する強盗、窃盗犯罪」が6.5ポイント、「女性に対する犯罪」が5.1ポイント、それぞれ増加している。

[職業別・地域別・市町別]

(上位10項目)



職業別でみると、「子どもに対する犯罪」では〈労務職〉が68.1%、〈管理職・事務職・専門技術職〉が67.9%と高くなっている。「振り込め詐欺を始めとする特殊詐欺事件」では〈その他の無職・学生〉が53.8%、〈家事〉が53.6%と高くなっている。「高齢者に対する犯罪」では〈農林漁業〉が51.9%、〈家事〉が50.5%と高くなっている。

地域別でみると、「家に侵入する強盗、窃盗犯罪」では〈県央地域〉が53.6%と高くなっている。「少年による凶悪、粗暴事件」では〈県央地域〉が51.0%と高くなっている。

市町別でみると、「家に侵入する強盗、窃盗犯罪」では〈宇都宮市〉が54.7%と高くなっている。「少年による凶悪、粗暴事件」では〈宇都宮市〉が52.0%と高くなっている。

(2-1) 子どもに対する犯罪に不安を感じる理由

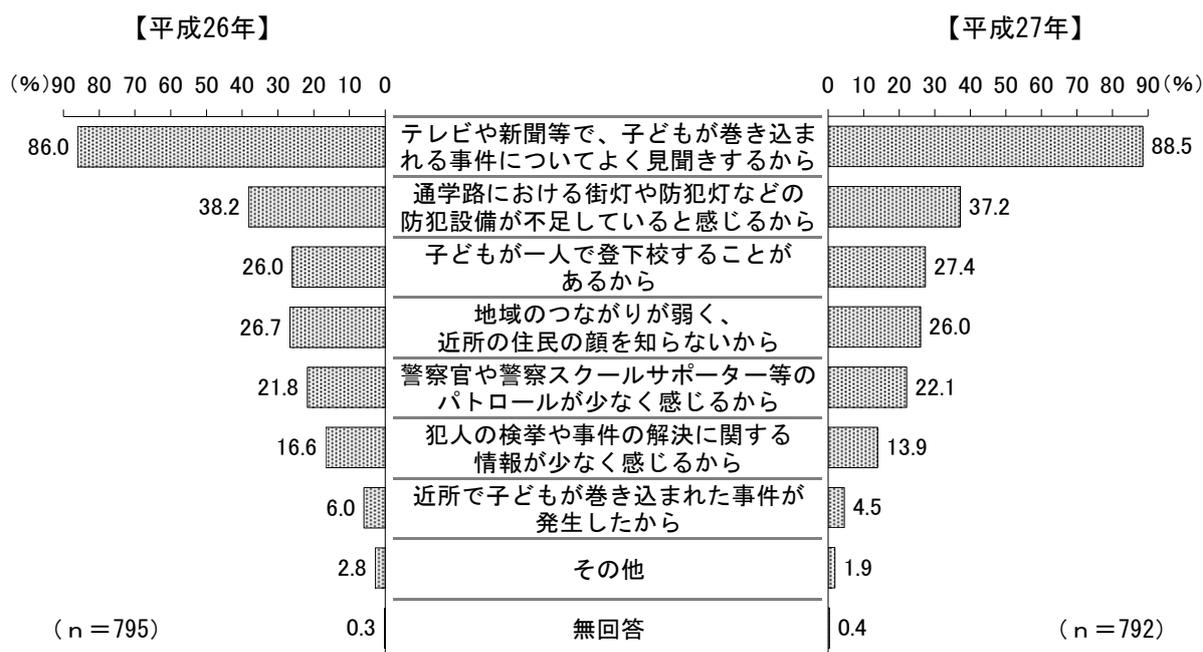
(問34で選択肢「子どもに対する犯罪」を選んだ方のみお答えください)

問34-1 あなたが、子どもに対する犯罪に不安を感じる理由は何ですか。

次の中からいくつでも選んでください。

[n=792]

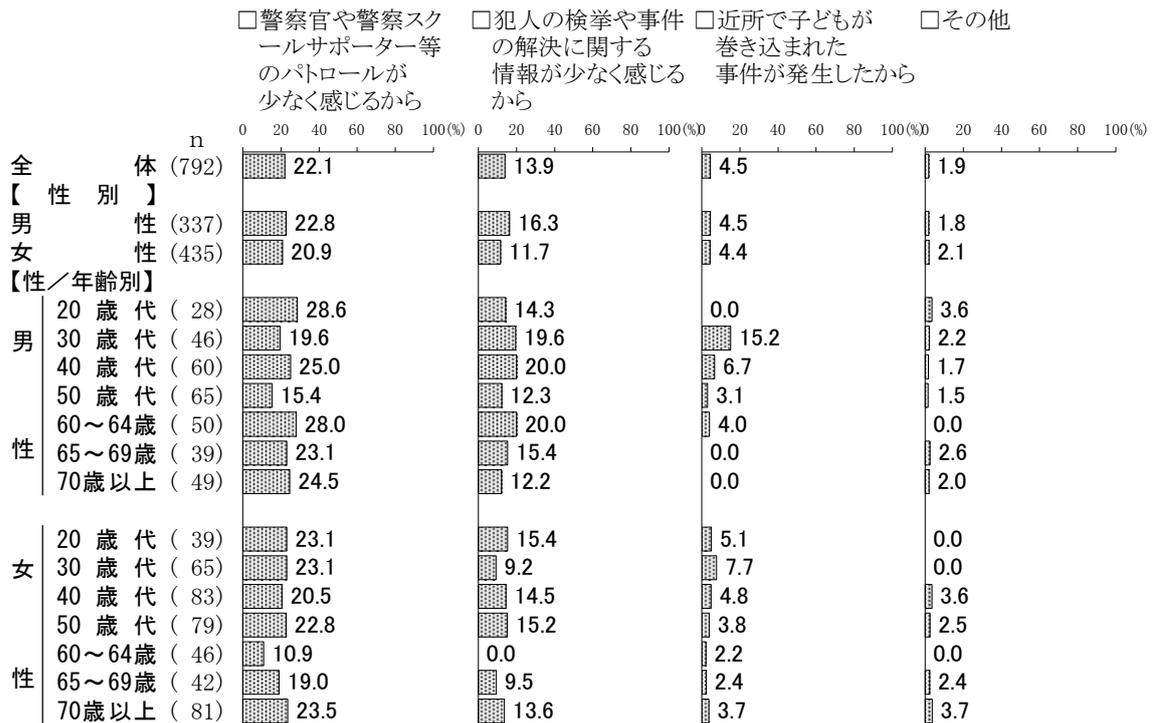
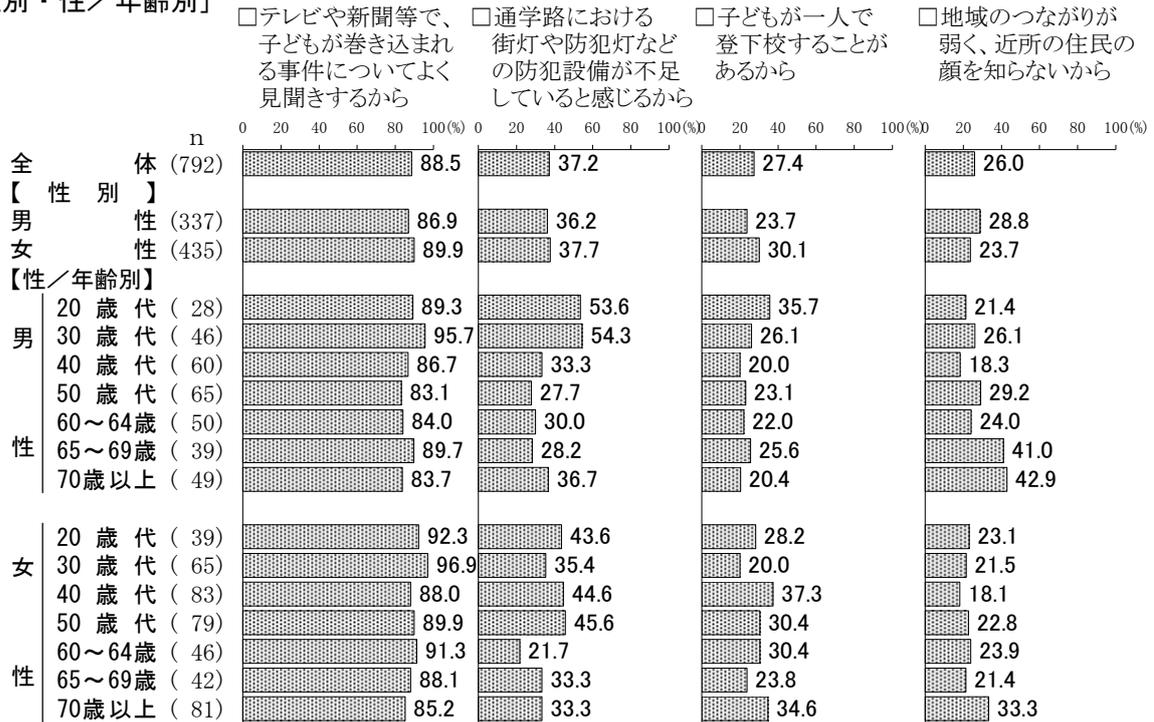
1	テレビや新聞等で、子どもが巻き込まれる事件についてよく見聞きするから	88.5%
2	通学路における街灯や防犯灯などの防犯設備が不足していると感じるから	37.2
3	子どもが一人で登下校することがあるから	27.4
4	地域のつながりが弱く、近所の住民の顔を知らないから	26.0
5	近所で子どもが巻き込まれた事件が発生したから	4.5
6	警察官や警察スクールサポーター等のパトロールが少なく感じるから	22.1
7	犯人の検挙や事件の解決に関する情報が少なく感じるから	13.9
8	その他	1.9
	(無回答)	0.4



全体で見ると、「テレビや新聞等で、子どもが巻き込まれる事件についてよく見聞きするから」(88.5%)が9割近くで最も高く、次いで「通学路における街灯や防犯灯などの防犯設備が不足していると感じるから」(37.2%)、「子どもが一人で登下校することがあるから」(27.4%)、「地域のつながりが弱く、近所の住民の顔を知らないから」(26.0%)の順となっている。

前回(平成26年)の調査結果と比較すると、「犯人の検挙や事件の解決に関する情報が少なく感じるから」が2.7ポイント減少している。一方、「テレビや新聞等で、子どもが巻き込まれる事件についてよく見聞きするから」が2.5ポイント増加している。

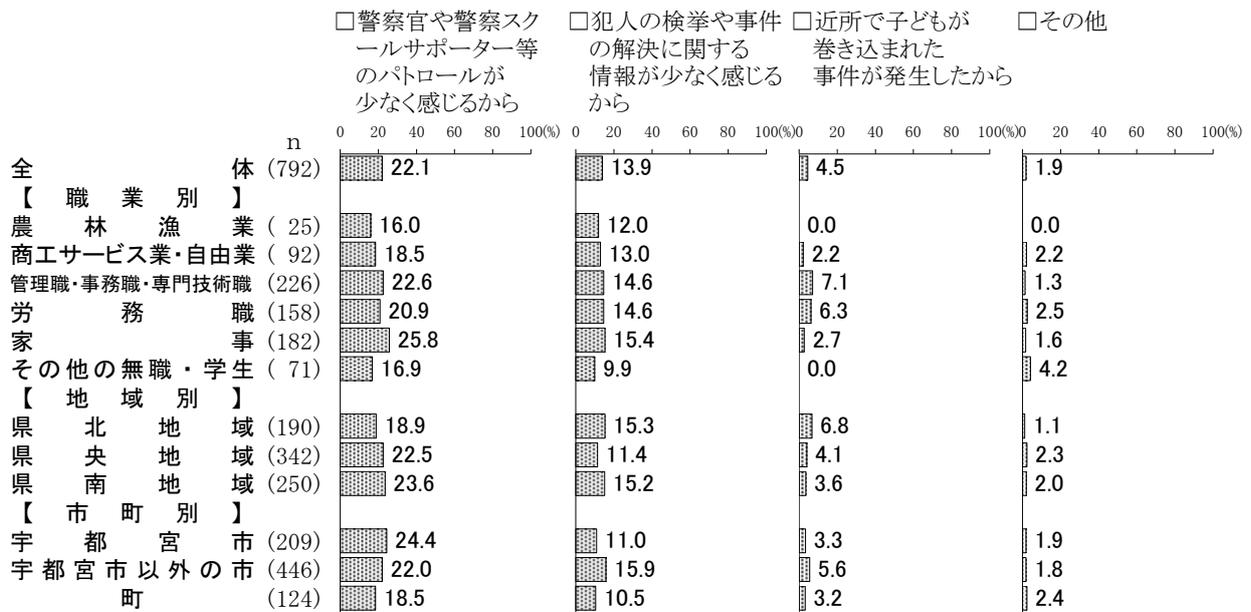
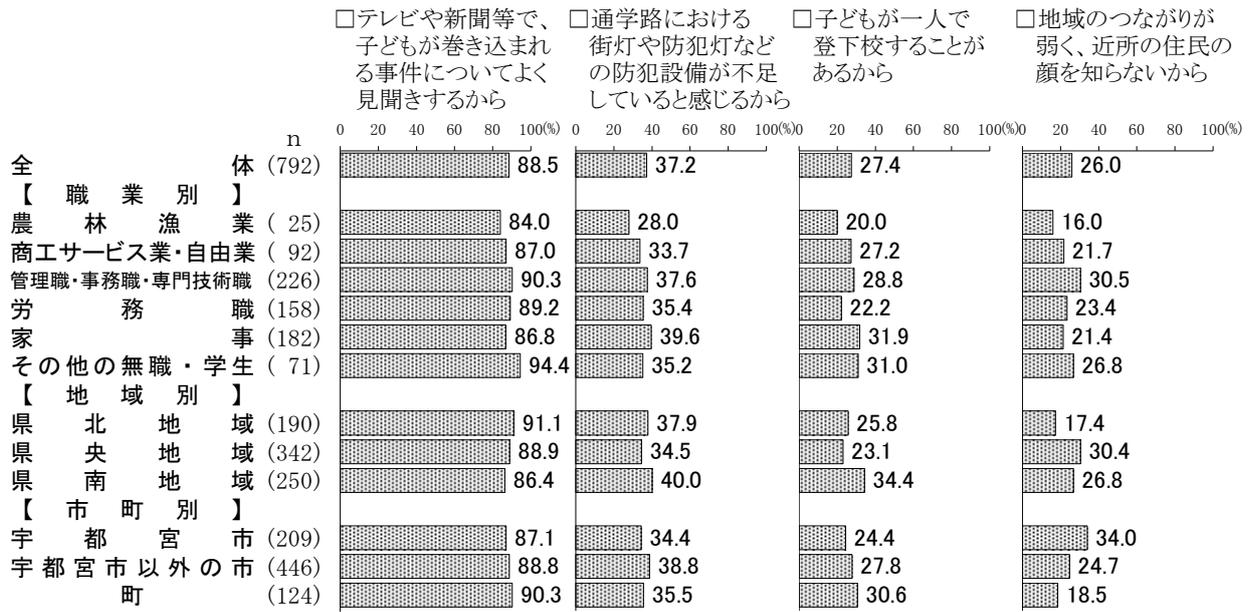
[性別・性／年齢別]



性別でみると、「子どもが一人で登下校することがあるから」では〈女性〉(30.1%)が〈男性〉(23.7%)より6.4ポイント高くなっている。「地域のつながりが弱く、近所の住民の顔を知らないから」では〈男性〉(28.8%)が〈女性〉(23.7%)より5.1ポイント高くなっている。

性／年齢別でみると、「通学路における街灯や防犯灯などの防犯設備が不足していると感じるから」では〈男性30歳代〉が54.3%、〈男性20歳代〉が53.6%と高くなっている。「子どもが一人で登下校することがあるから」では〈女性40歳代〉が37.3%と高くなっている。「地域のつながりが弱く、近所の住民の顔を知らないから」では〈男性70歳以上〉が42.9%、〈男性65～69歳〉が41.0%と高くなっている。

[職業別・地域別・市町別]



職業別でみると、「テレビや新聞等で、子どもが巻き込まれる事件についてよく見聞きするから」では〈その他の無職・学生〉が94.4%と高くなっている。

地域別でみると、「子どもが一人で登下校することがあるから」では〈県南地域〉が34.4%と高くなっている。

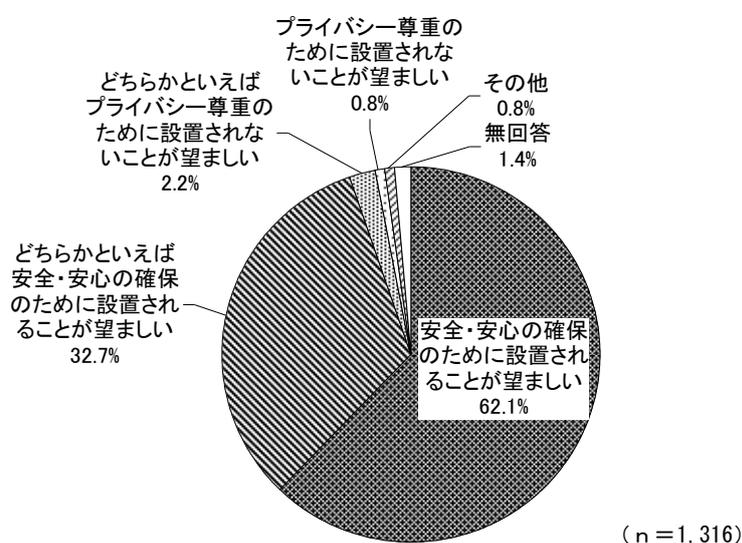
市町別でみると、「地域のつながりが弱く、近所の住民の顔を知らないから」では〈宇都宮市〉が34.0%と高くなっている。

(3) 公共空間における防犯カメラの設置について

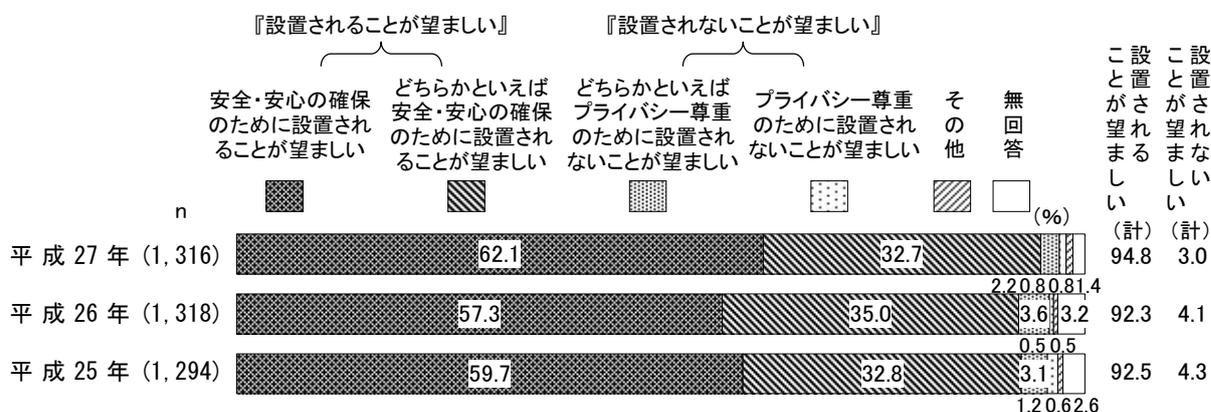
問35 あなたは、公共空間における防犯カメラの設置についてどのように思いますか。
次の中から1つ選んでください。

[n=1,316]

- | | | |
|---|-----------------------------------|------------|
| 1 | 安全・安心の確保のために設置されることが望ましい | 62.1% |
| 2 | どちらかといえば安全・安心の確保のために設置されることが望ましい | 32.7 |
| 3 | どちらかといえばプライバシー尊重のために設置されないことが望ましい | 2.2 |
| 4 | プライバシー尊重のために設置されないことが望ましい | 0.8 |
| 5 | その他
(無回答) | 0.8
1.4 |

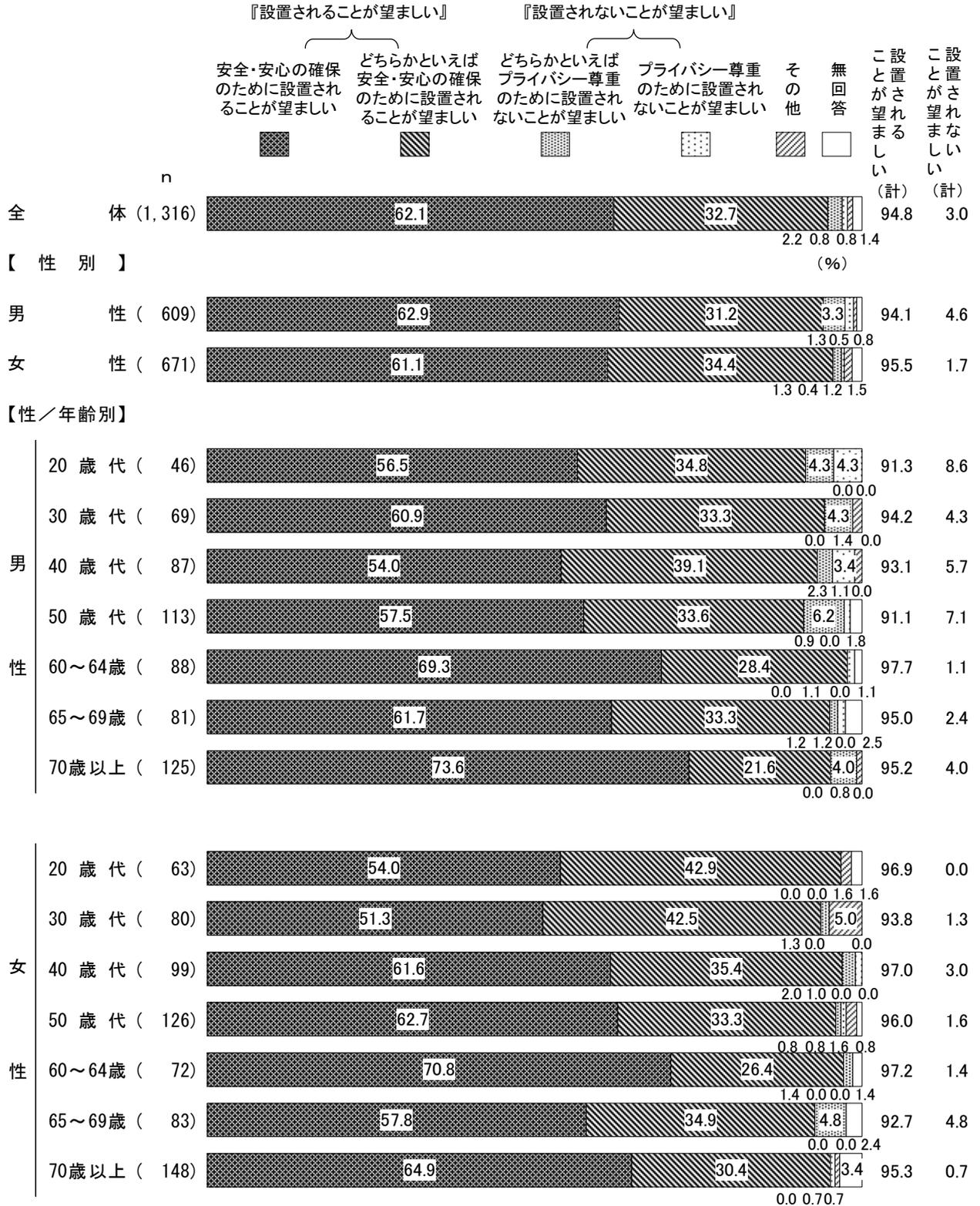


全体で見ると、「安全・安心の確保のために設置されることが望ましい」(62.1%)と「どちらかといえば安全・安心の確保のために設置されることが望ましい」(32.7%)の2つを合わせた『設置されることが望ましい』(94.8%)は9割半ばとなっている。一方、「どちらかといえばプライバシー尊重のために設置されないことが望ましい」(2.2%)と「プライバシー尊重のために設置されないことが望ましい」(0.8%)の2つを合わせた『設置されないことが望ましい』(3.0%)は1割に満たない。



過去の調査結果と比較すると、「安全・安心の確保のために設置されることが望ましい」が前回(平成26年)より4.8ポイント増加している。

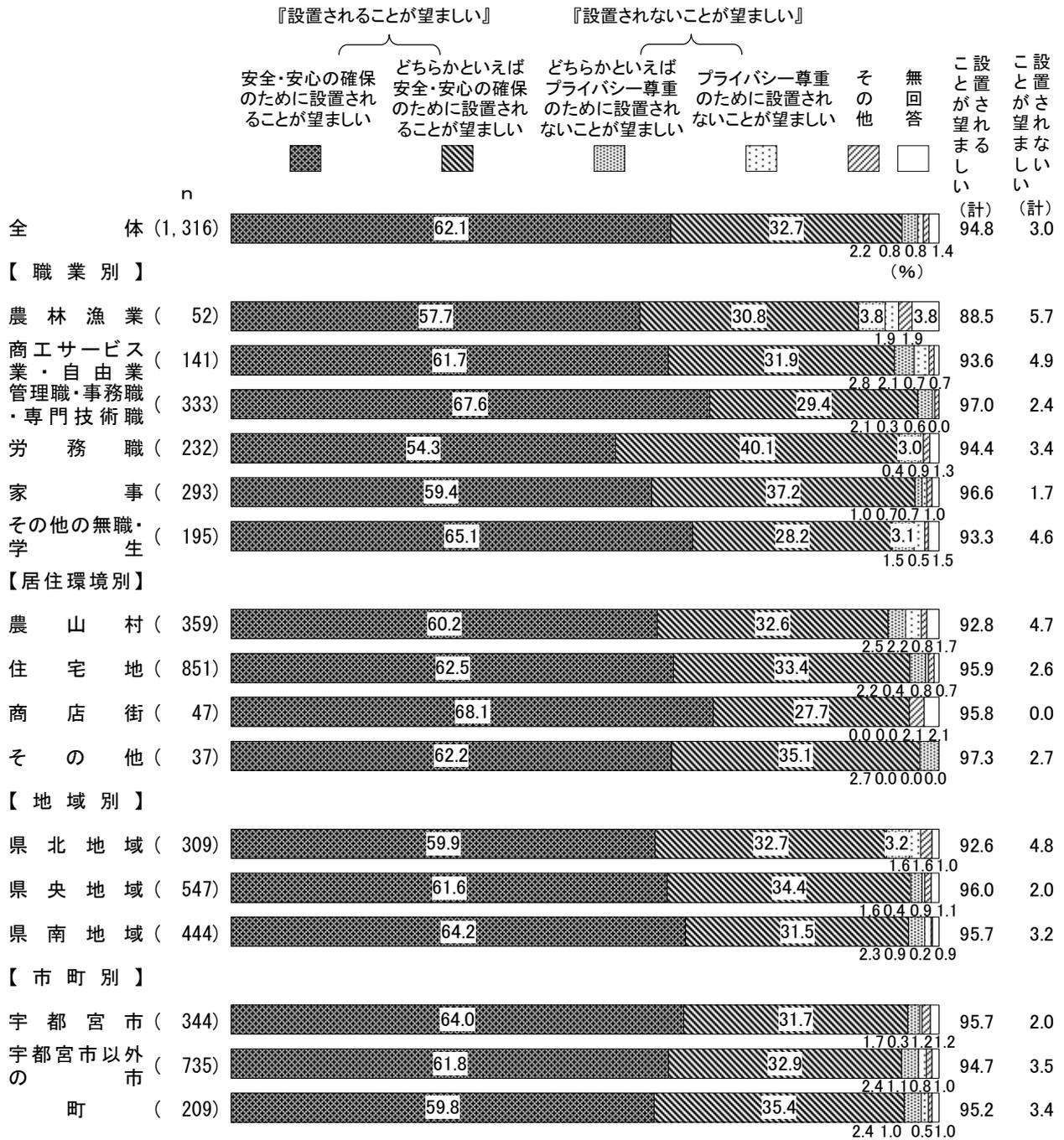
【性別・性／年齢別】



性別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

性／年齢別でみると、『設置されることが望ましい』はすべての年代で9割台と高くなっている。

〔職業別・居住環境別・地域別・市町別〕



職業別でみると、「安全・安心の確保のために設置されることが望ましい」では〈管理職・事務職・専門技術職〉が67.6%、〈その他の無職・学生〉が65.1%と高くなっている。

居住環境別でみると、「安全・安心の確保のために設置されることが望ましい」では〈商店街〉が68.1%と高くなっている。

地域別でみると、「安全・安心の確保のために設置されることが望ましい」では〈県南地域〉が64.2%と高くなっている。

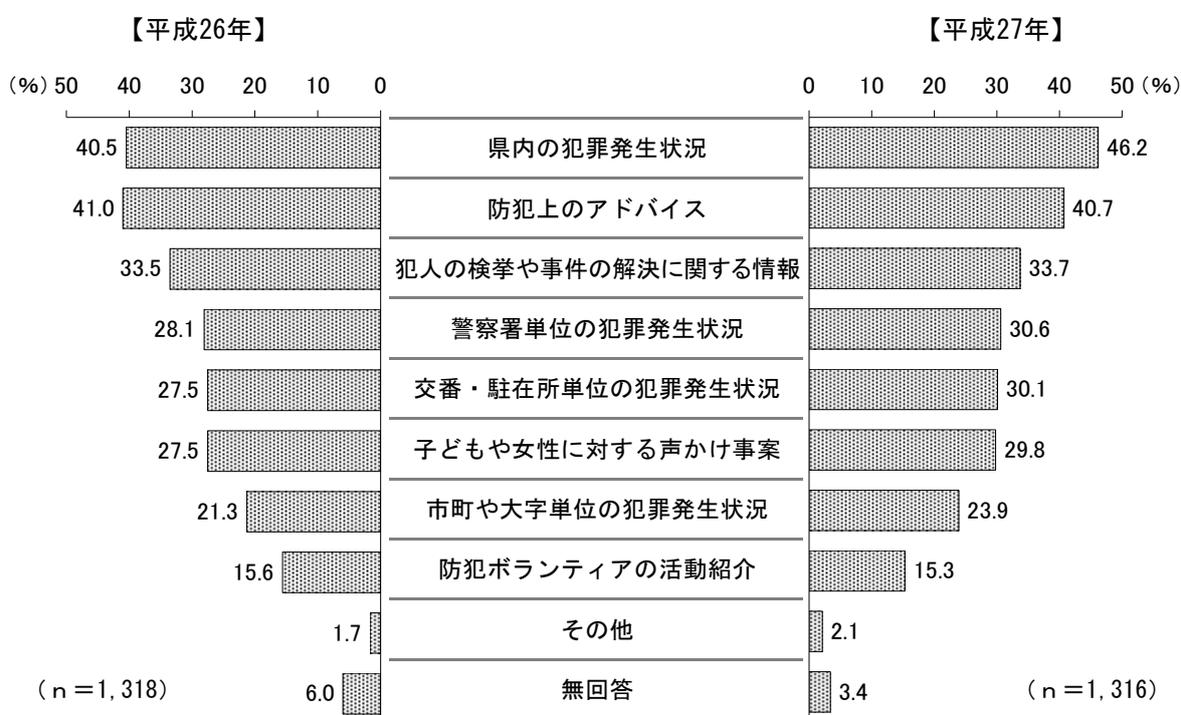
市町別でみると、「安全・安心の確保のために設置されることが望ましい」では〈宇都宮市〉が64.0%と高くなっている。

(4) 犯罪の発生や防犯に関する情報で知りたいこと

問36 犯罪の発生や防犯に関して、あなたは、警察からどのような内容の情報提供を望みますか。次の中からいくつでも選んでください。

[n=1,316]

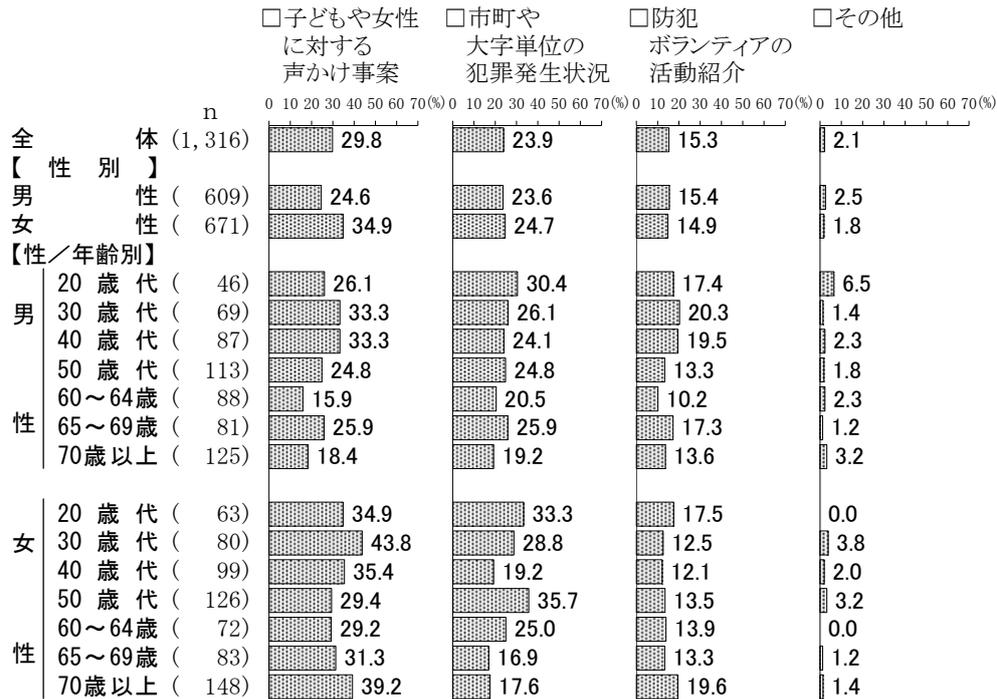
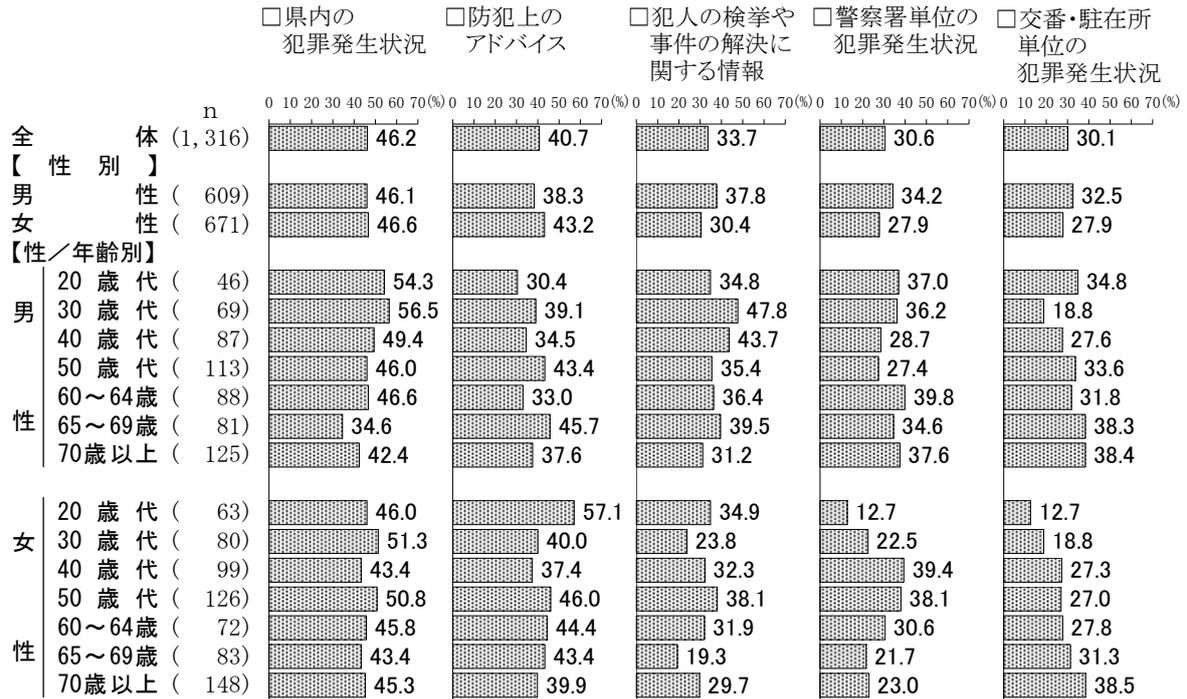
1	県内の犯罪発生状況	46.2%	6	子どもや女性に対する声かけ事案	29.8%
2	警察署単位の犯罪発生状況	30.6	7	防犯上のアドバイス	40.7
3	交番・駐在所単位の犯罪発生状況	30.1	8	防犯ボランティアの活動紹介	15.3
4	市町や大字単位の犯罪発生状況	23.9	9	その他	2.1
5	犯人の検挙や事件の解決に関する情報	33.7		(無回答)	3.4



全体で見ると、「県内の犯罪発生状況」(46.2%)が4割半ばで最も高く、次いで「防犯上のアドバイス」(40.7%)、「犯人の検挙や事件の解決に関する情報」(33.7%)、「警察署単位の犯罪発生状況」(30.6%)、「交番・駐在所単位の犯罪発生状況」(30.1%)、「子どもや女性に対する声かけ事案」(29.8%)の順となっている。

前回(平成26年)の調査結果と比較すると、「県内の犯罪発生状況」が5.7ポイント増加している。

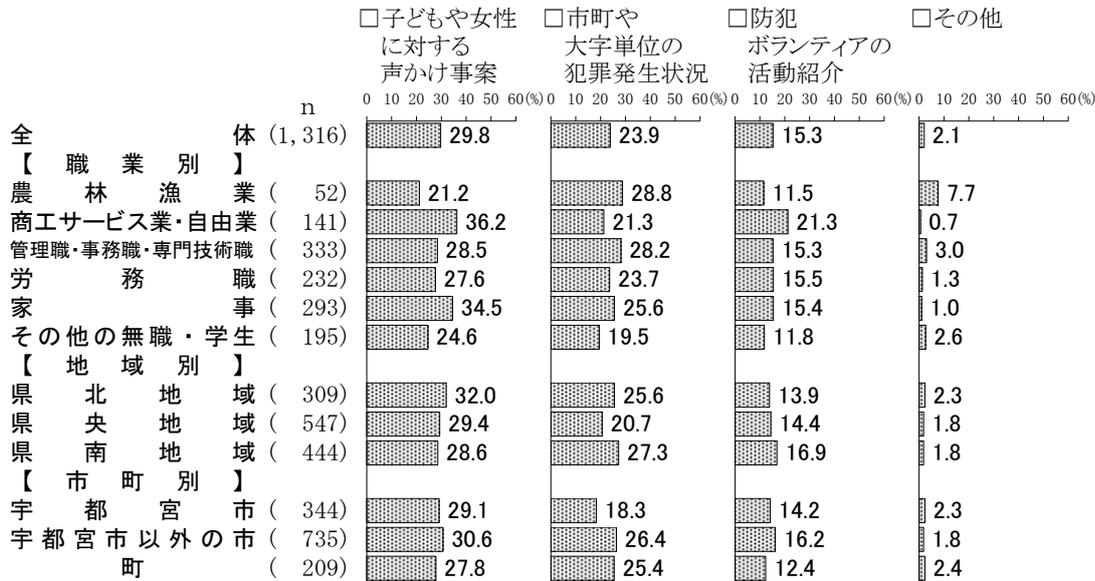
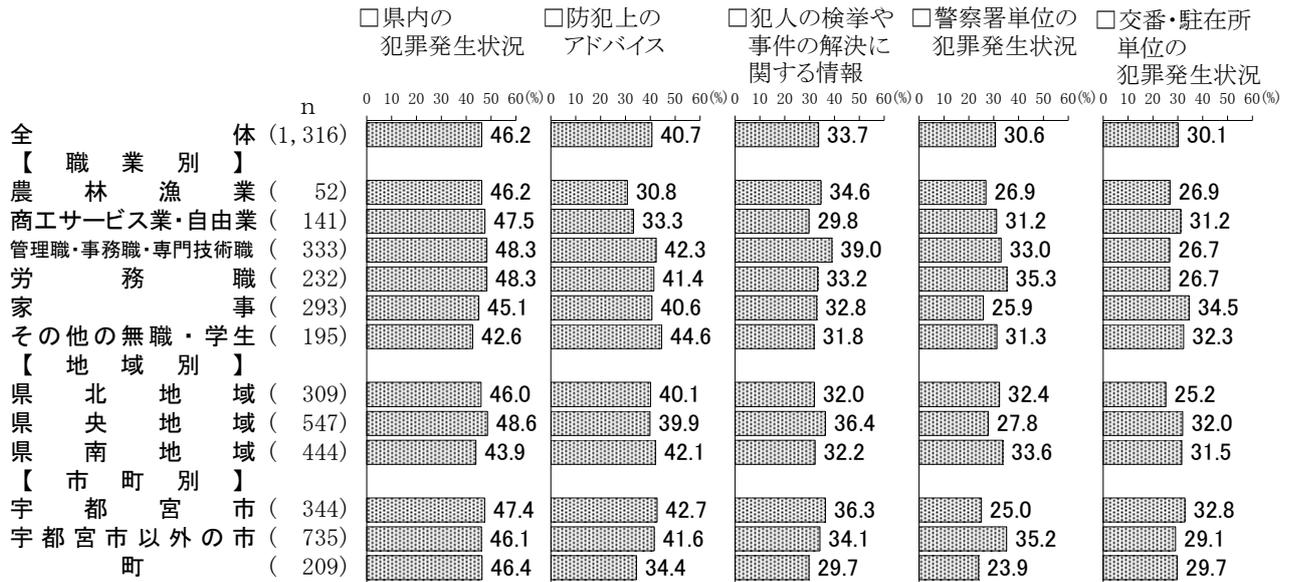
[性別・性／年齢別]



性別で見ると、「子どもや女性に対する声かけ事案」では〈女性〉(34.9%)が〈男性〉(24.6%)より10.3ポイント高くなっている。「犯人の検挙や事件の解決に関する情報」では〈男性〉(37.8%)が〈女性〉(30.4%)より7.4ポイント高くなっている。「警察署単位の犯罪発生状況」では〈男性〉(34.2%)が〈女性〉(27.9%)より6.3ポイント高くなっている。

性／年齢別で見ると、「県内の犯罪発生状況」では〈男性30歳代〉が56.5%と高くなっている。「防犯上のアドバイス」では〈女性20歳代〉が57.1%と高くなっている。「子どもや女性に対する声かけ事案」では〈女性30歳代〉が43.8%と高くなっている。

[職業別・地域別・市町別]



職業別でみると、「犯人の検挙や事件の解決に関する情報」では〈管理職・事務職・専門技術職〉が39.0%と高くなっている。「子どもや女性に対する声かけ事案」では〈商工サービス業・自由業〉が36.2%と高くなっている。

地域別でみると、「交番・駐在所単位の犯罪発生状況」では〈県央地域〉が32.0%、〈県南地域〉が31.5%となっており、〈県北地域〉(25.2%)に比べて高くなっている。

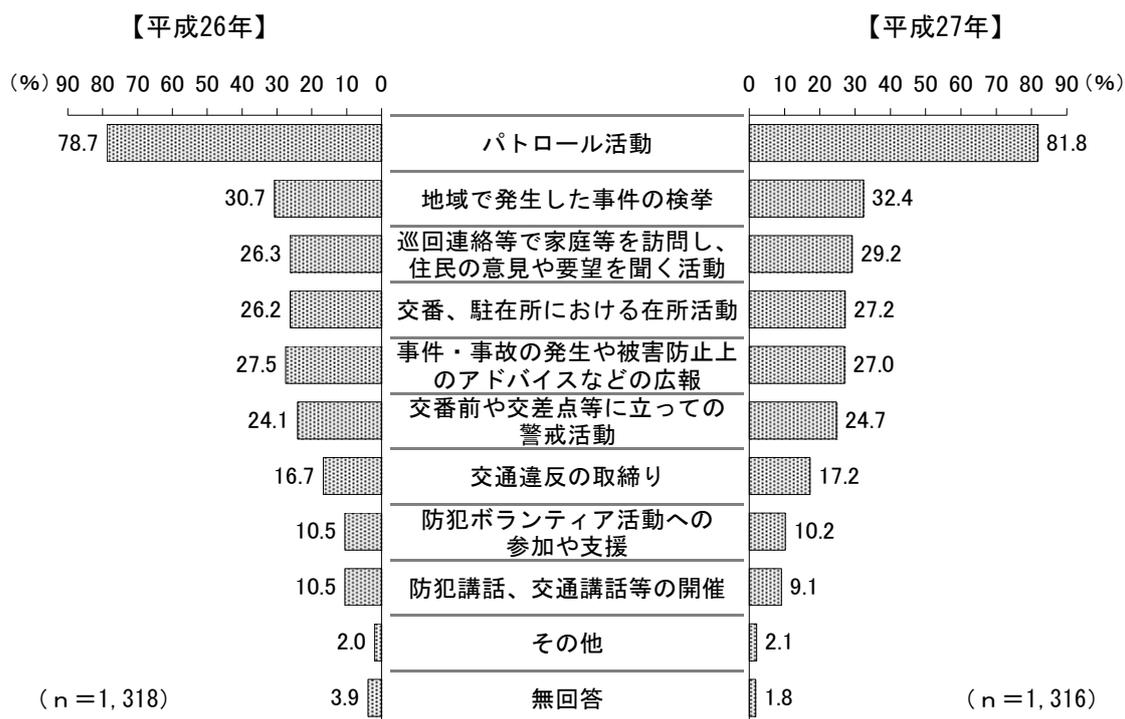
市町別でみると、「防犯上のアドバイス」では〈宇都宮市〉が42.7%、〈宇都宮市以外の市〉が41.6%となっており、〈町〉(34.4%)に比べて高くなっている。「警察署単位の犯罪発生状況」では〈宇都宮市以外の市〉が35.2%と高くなっている。

(5) 交番や駐在所の警察官に特に力を入れてほしい活動

問37 あなたが、交番や駐在所の警察官に特に力を入れてほしい活動は何ですか。
次の中からいくつでも選んでください。

[n=1,316]

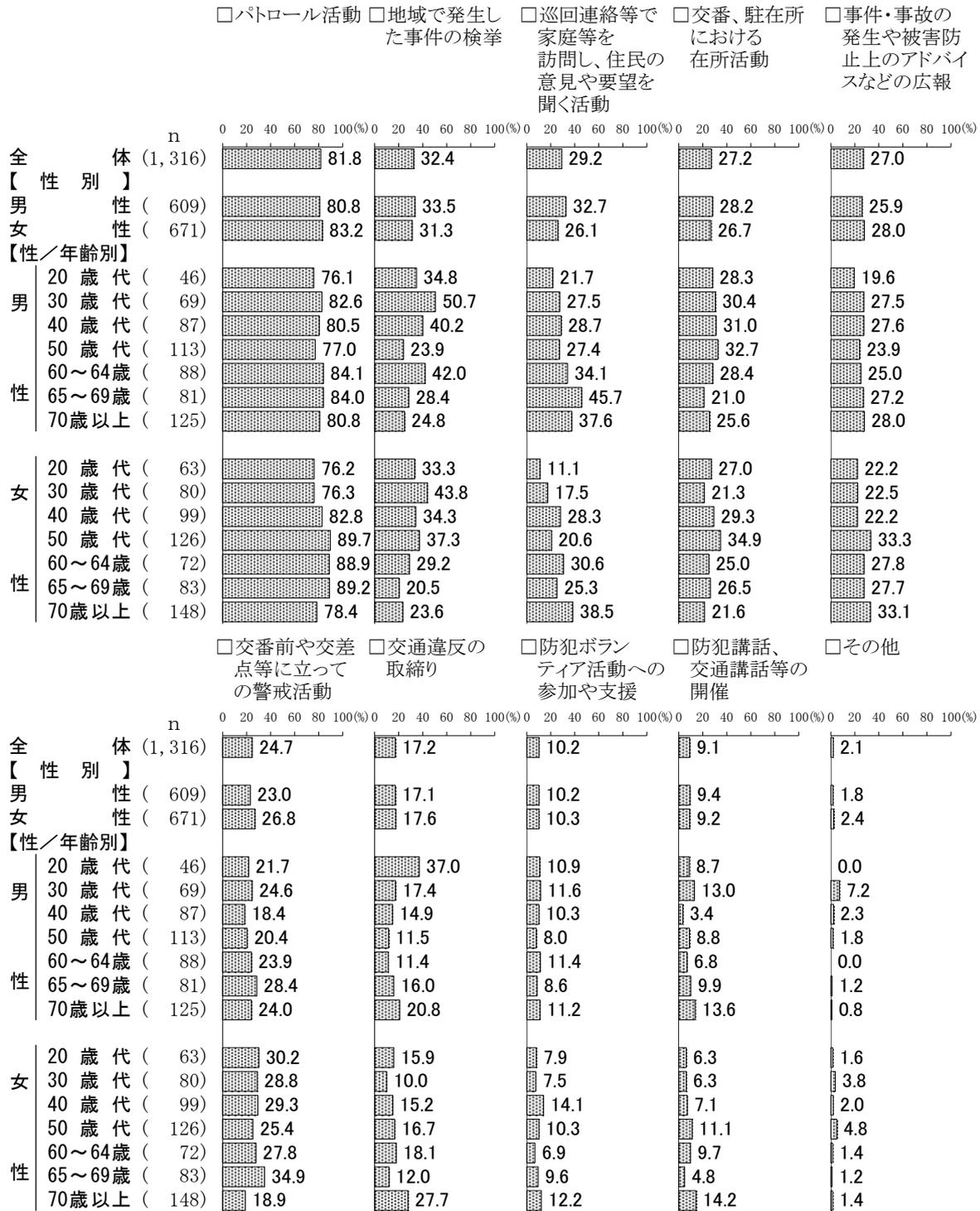
1	パトロール活動	81.8%
2	交番、駐在所における在所活動	27.2
3	巡回連絡等で家庭等を訪問し、住民の意見や要望を聞く活動	29.2
4	交番前や交差点等に立っての警戒活動	24.7
5	事件・事故の発生や被害防止上のアドバイスなどの広報	27.0
6	地域で発生した事件の検挙	32.4
7	交通違反の取締り	17.2
8	防犯講話、交通講話等の開催	9.1
9	防犯ボランティア活動への参加や支援	10.2
10	その他	2.1
	(無回答)	1.8



全体で見ると、「パトロール活動」(81.8%)が8割を超えて最も高く、次いで「地域で発生した事件の検挙」(32.4%)、「巡回連絡等で家庭等を訪問し、住民の意見や要望を聞く活動」(29.2%)、「交番、駐在所における在所活動」(27.2%)、「事件・事故の発生や被害防止上のアドバイスなどの広報」(27.0%)、「交番前や交差点等に立っての警戒活動」(24.7%)の順となっている。

前回(平成26年)の調査結果と比較すると、「パトロール活動」が3.1ポイント、「巡回連絡等で家庭等を訪問し、住民の意見や要望を聞く活動」が2.9ポイント、それぞれ増加している。

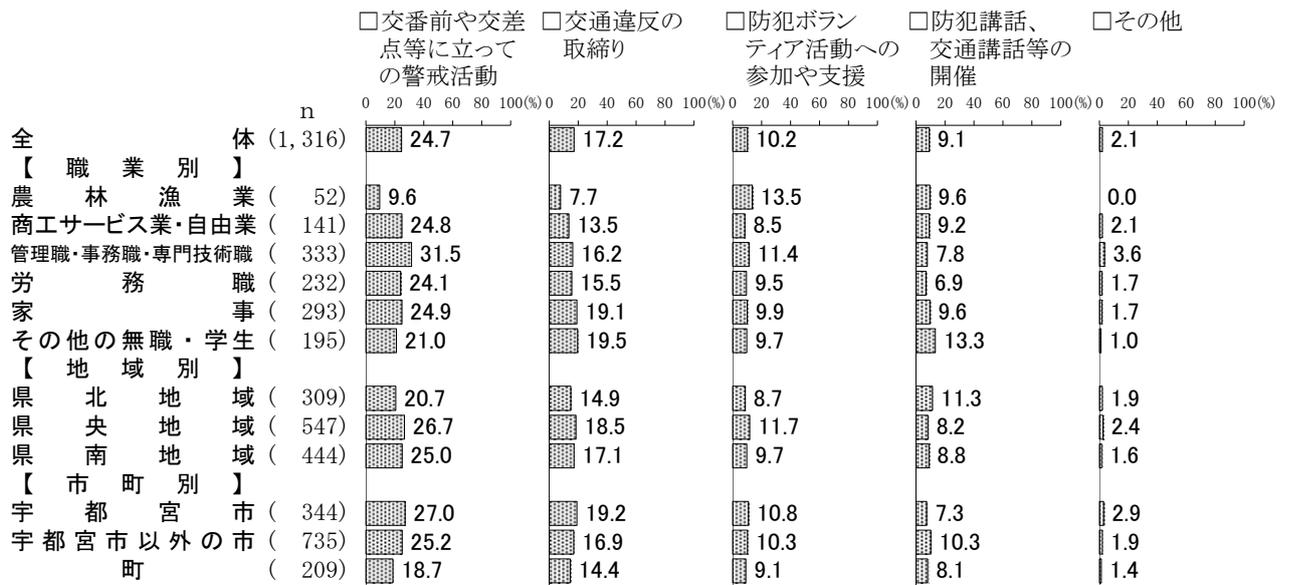
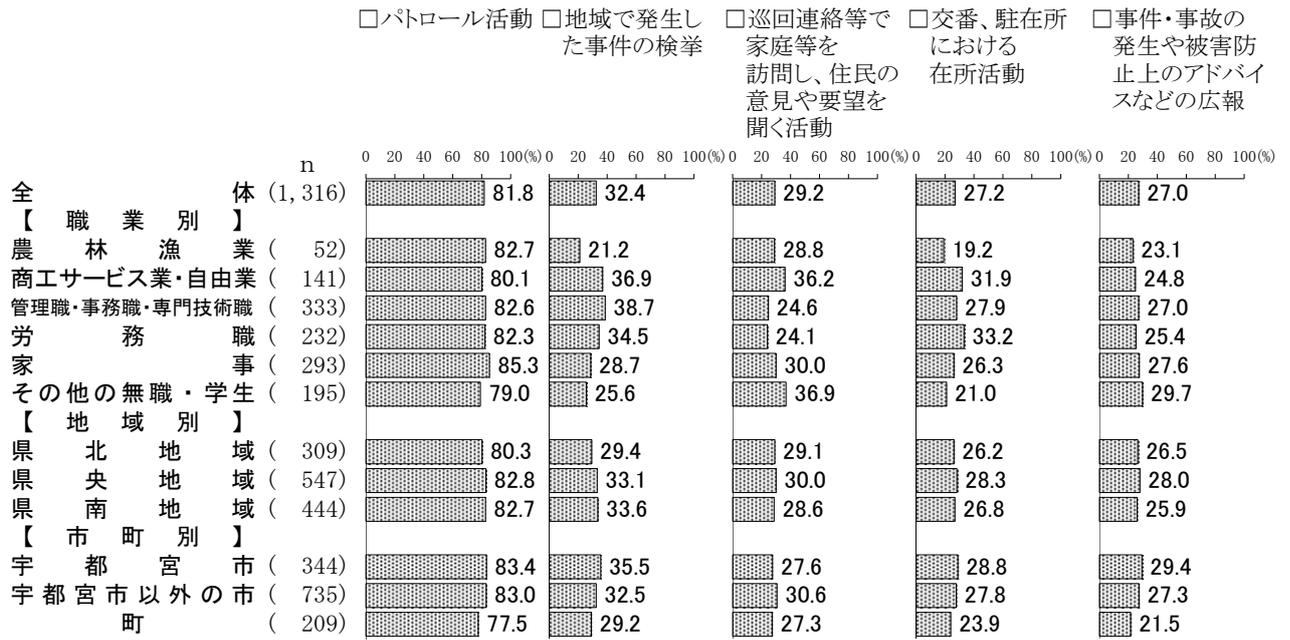
[性別・性／年齢別]



性別でみると、「巡回連絡等で家庭等を訪問し、住民の意見や要望を聞く活動」では〈男性〉(32.7%)が〈女性〉(26.1%)より6.6ポイント高くなっている。「交番前や交差点等においての警戒活動」では〈女性〉(26.8%)が〈男性〉(23.0%)より3.8ポイント高くなっている。

性／年齢別でみると、「地域で発生した事件の検挙」では〈男性30歳代〉が50.7%と高くなっている。「巡回連絡等で家庭等を訪問し、住民の意見や要望を聞く活動」では〈男性65~69歳〉が45.7%と高くなっている。「交通違反の取締り」では〈男性20歳代〉が37.0%と高くなっている。

[職業別・地域別・市町別]



職業別でみると、「巡回連絡等で家庭等を訪問し、住民の意見や要望を聞く活動」では〈その他の無職・学生〉が36.9%、〈商工サービス業・自由業〉が36.2%と高くなっている。「交番前や交差点等に立っての警戒活動」では〈管理職・事務職・専門技術職〉が31.5%と高くなっている。

地域別でみると、「交番前や交差点等に立っての警戒活動」では〈県央地域〉が26.7%、〈県南地域〉が25.0%となっており、〈県北地域〉(20.7%)に比べて高くなっている。

市町別でみると、「地域で発生した事件の検挙」では〈宇都宮市〉が35.5%と高くなっている。

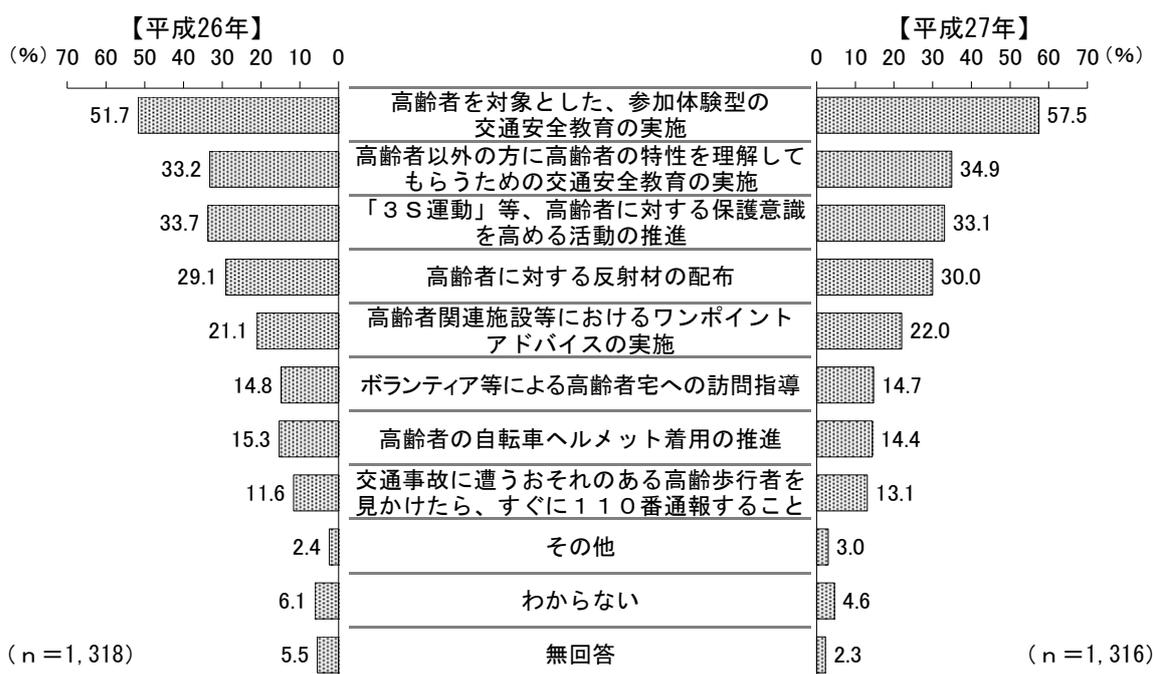
(6) 高齢者の交通事故防止のために必要な対策

問38 全交通事故死者の約4割を高齢者が占めていますが、高齢者の事故を防止するため、あなたは何かが必要だと思いませんか。次の中から3つまで選んでください。

[n=1,316]

1	高齢者を対象とした、参加体験型の交通安全教育の実施	57.5%
2	高齢者に対する反射材の配布	30.0
3	ボランティア等による高齢者宅への訪問指導	14.7
4	高齢者関連施設等におけるワンポイントアドバイスの実施	22.0
5	高齢者の自転車ヘルメット着用の推進	14.4
6	「3S運動」(※)等、高齢者に対する保護意識を高める活動の推進	33.1
7	高齢者以外の方に高齢者の特性を理解してもらうための交通安全教育の実施	34.9
8	交通事故に遭うおそれのある高齢歩行者を見かけたら、直ぐに110番通報すること	13.1
9	その他	3.0
10	わからない	4.6
	(無回答)	2.3

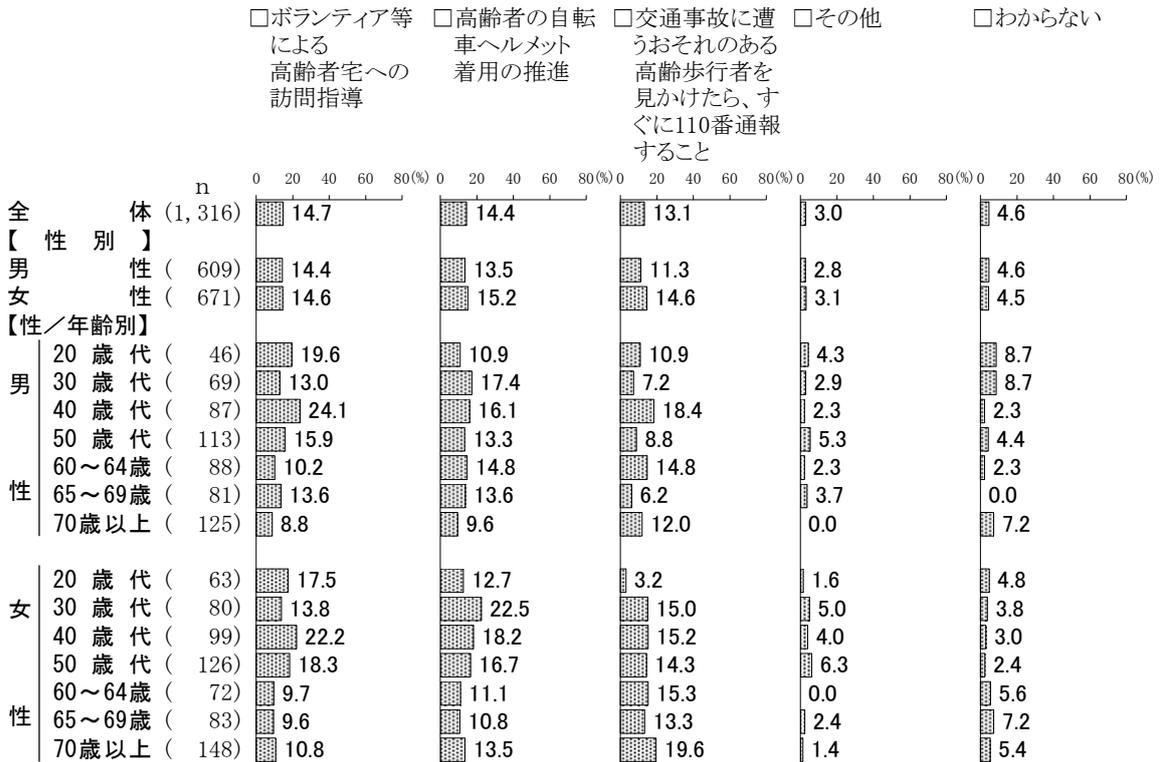
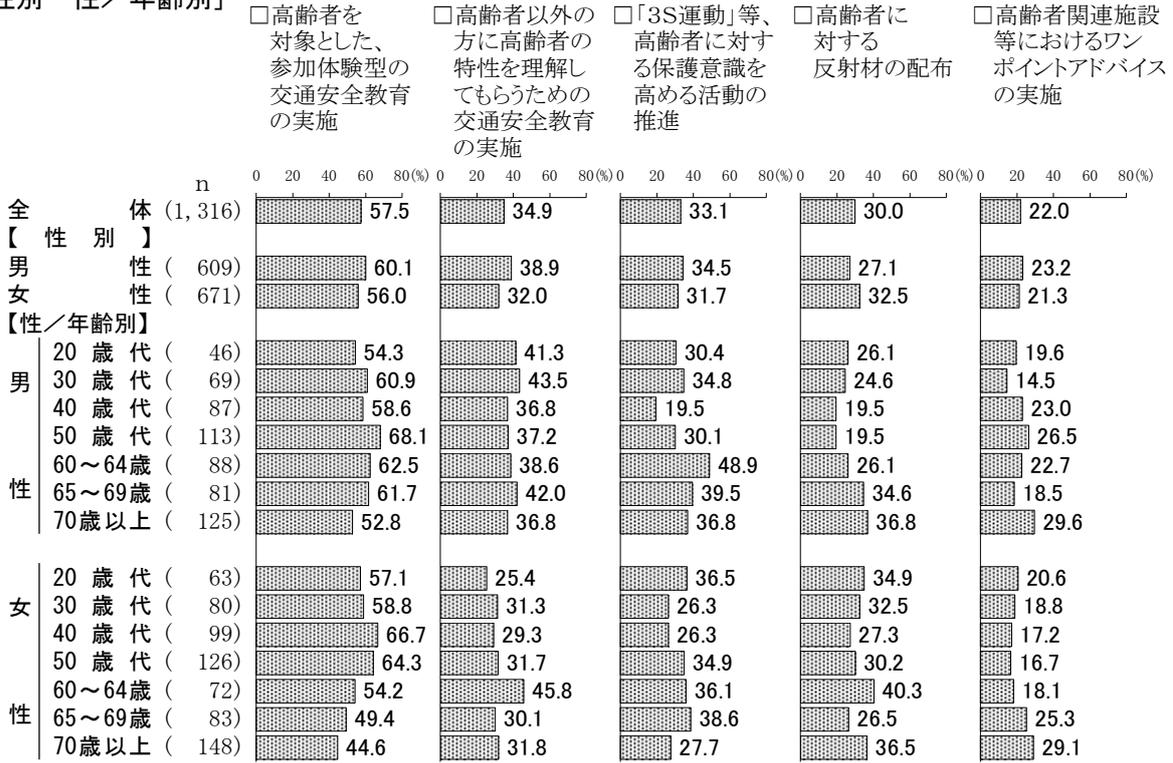
※ 3S(スリーエス)とは、SEE(見る)、SLOW(減速する)、STOP(止まる)の頭文字をとったものです。



全体で見ると、「高齢者を対象とした、参加体験型の交通安全教育の実施」(57.5%)が6割近くで最も高く、次いで「高齢者以外の方に高齢者の特性を理解してもらうための交通安全教育の実施」(34.9%)、「『3S運動』等、高齢者に対する保護意識を高める活動の推進」(33.1%)、「高齢者に対する反射材の配布」(30.0%)の順となっている。

前回(平成26年)の調査結果と比較すると、「高齢者を対象とした、参加体験型の交通安全教育の実施」が5.8ポイント増加している。

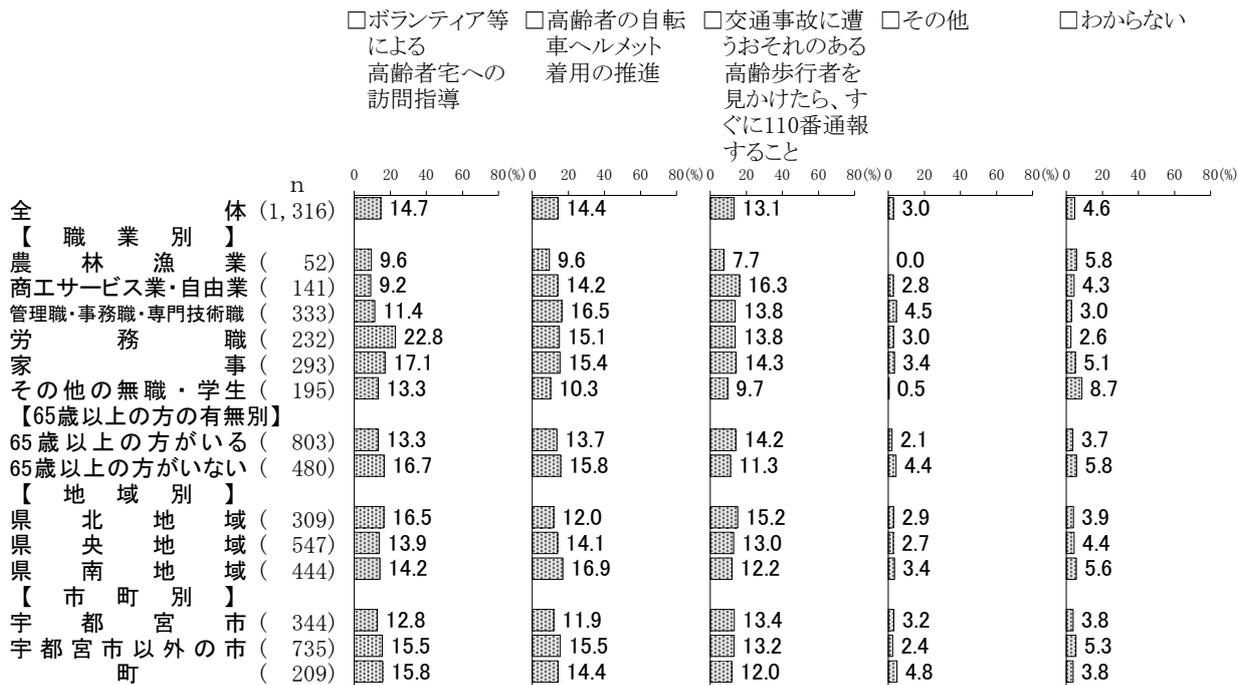
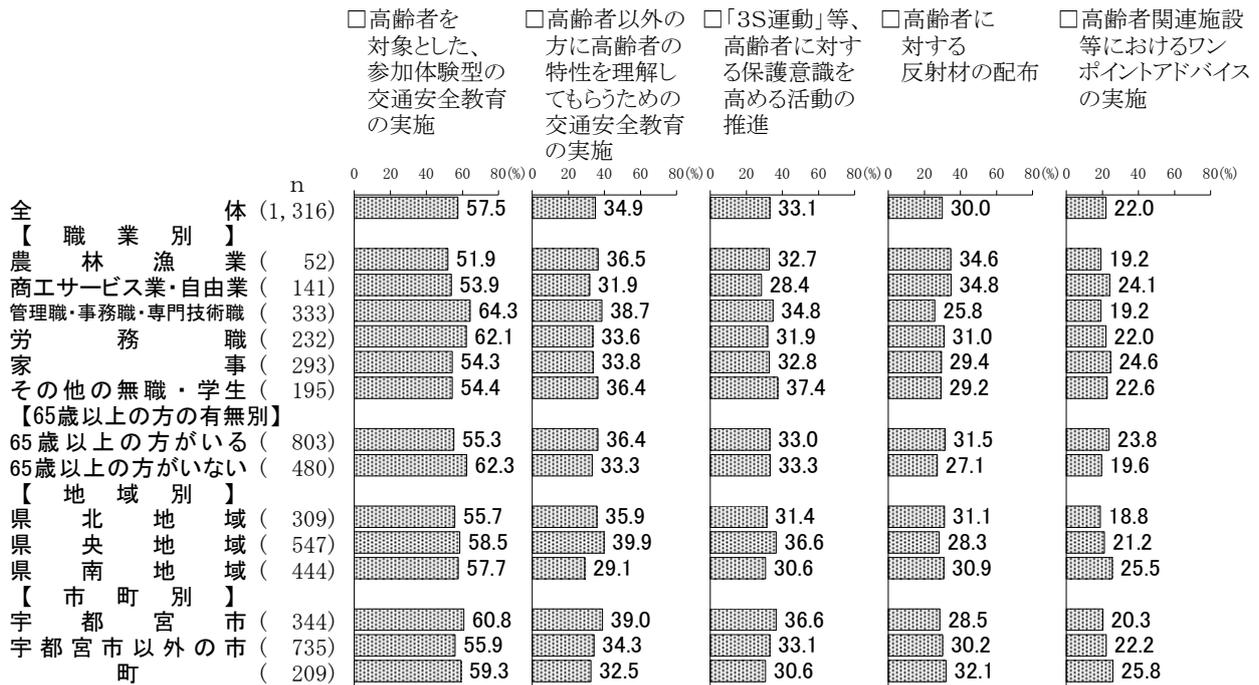
[性別・性／年齢別]



性別でみると、「高齢者以外の方に高齢者の特性を理解してもらうための交通安全教育の実施」では〈男性〉(38.9%)が〈女性〉(32.0%)より6.9ポイント高くなっている。「高齢者に対する反射材の配布」では〈女性〉(32.5%)が〈男性〉(27.1%)より5.4ポイント高くなっている。

性／年齢別でみると、「高齢者以外の方に高齢者の特性を理解してもらうための交通安全教育の実施」では〈女性60~64歳〉が45.8%と高くなっている。「『3S運動』等、高齢者に対する保護意識を高める活動の推進」では〈男性60~64歳〉が48.9%と高くなっている。

【職業別・65歳以上の方の有無別・地域別・市町別】



職業別でみると、「高齢者を対象とした、参加体験型の交通安全教育の実施」では〈管理職・事務職・専門技術職〉が64.3%、〈労務職〉が62.1%と高くなっている。

65歳以上の方の有無別でみると、「高齢者を対象とした、参加体験型の交通安全教育の実施」では〈65歳以上の方がいない〉(62.3%)が〈65歳以上の方がいる〉(55.3%)より7.0ポイント高くなっている。

地域別でみると、「高齢者以外の方に高齢者の特性を理解してもらうための交通安全教育の実施」では〈県央地域〉が39.9%と高くなっている。

市町別でみると、「高齢者以外の方に高齢者の特性を理解してもらうための交通安全教育の実施」では〈宇都宮市〉が39.0%と高くなっている。

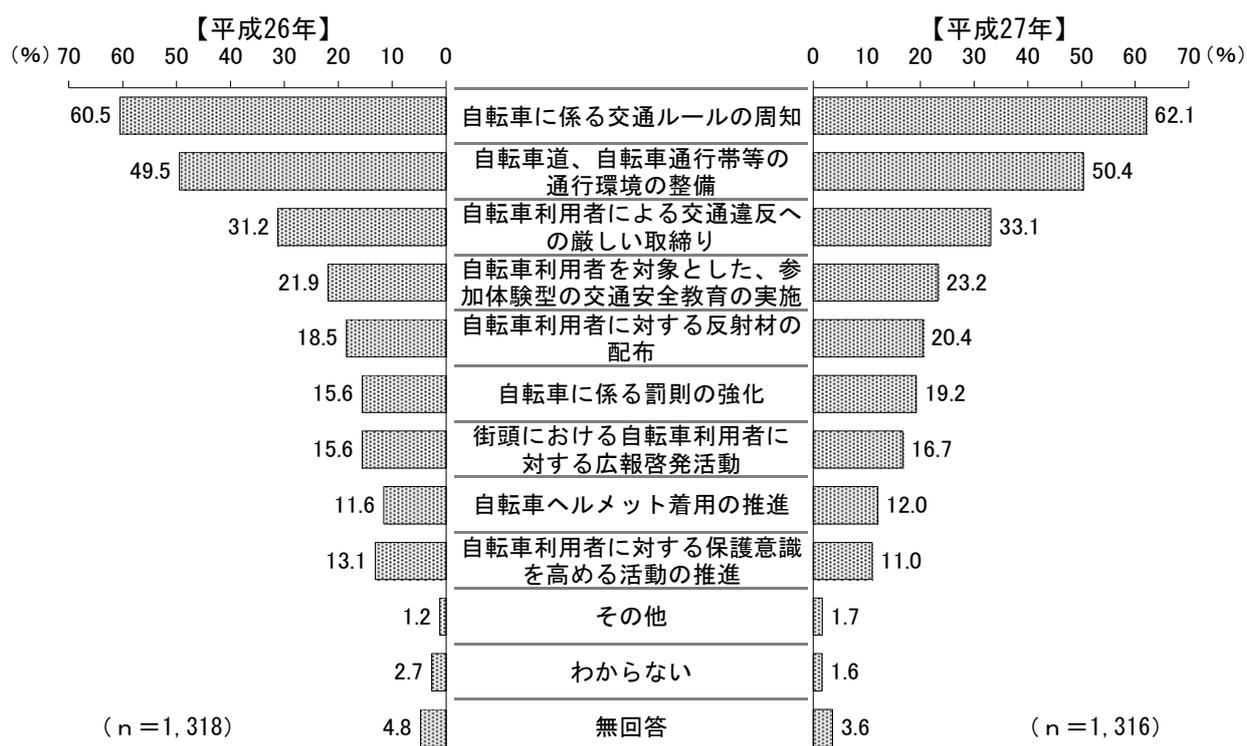
(7) 自転車の安全利用を促進するために必要な対策

問39 自転車の安全利用を促進するために、あなたは何が重要だと思いますか。

次の中から3つまで選んでください。

[n=1,316]

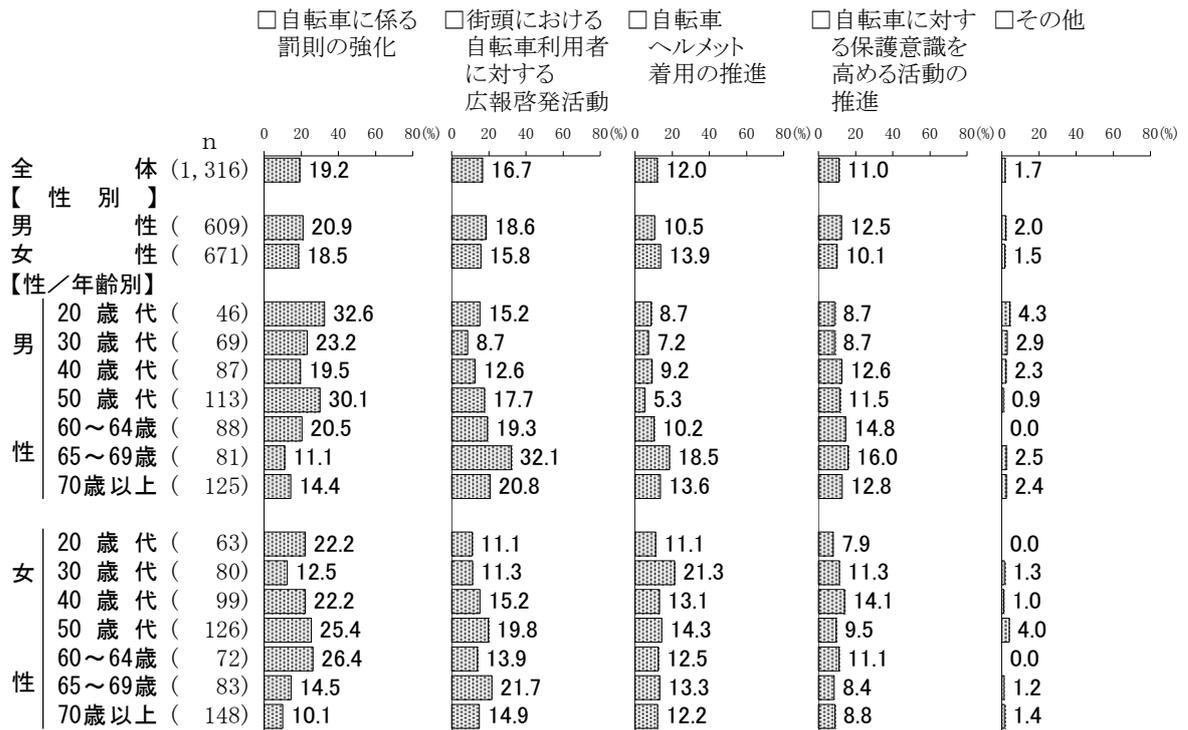
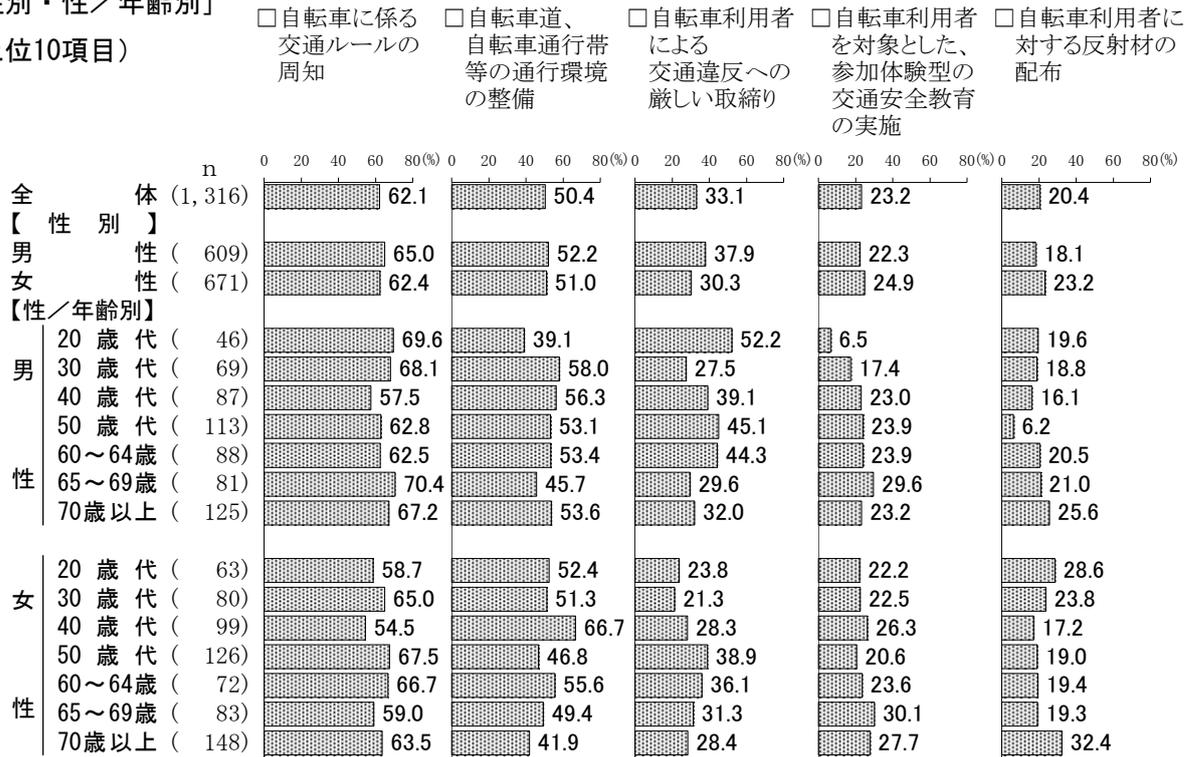
1	自転車に係る交通ルールの周知	62.1%
2	自転車利用者を対象とした、参加体験型の交通安全教育の実施	23.2
3	街頭における自転車利用者に対する広報啓発活動	16.7
4	自転車利用者に対する反射材の配布	20.4
5	自転車に対する保護意識を高める活動の推進	11.0
6	自転車利用者による交通違反への厳しい取締り	33.1
7	自転車ヘルメット着用の推進	12.0
8	自転車道、自転車通行帯等の通行環境の整備	50.4
9	自転車に係る罰則の強化	19.2
10	その他	1.7
11	わからない	1.6
	(無回答)	3.6



全体で見ると、「自転車に係る交通ルールの周知」(62.1%)が6割を超えて最も高く、次いで「自転車道、自転車通行帯等の通行環境の整備」(50.4%)、「自転車利用者による交通違反への厳しい取締り」(33.1%)、「自転車利用者を対象とした、参加体験型の交通安全教育の実施」(23.2%)、「自転車利用者に対する反射材の配布」(20.4%)の順となっている。

前回(平成26年)の調査結果と比較すると、「自転車に係る罰則の強化」が3.6ポイント増加している。

[性別・性／年齢別]
(上位10項目)

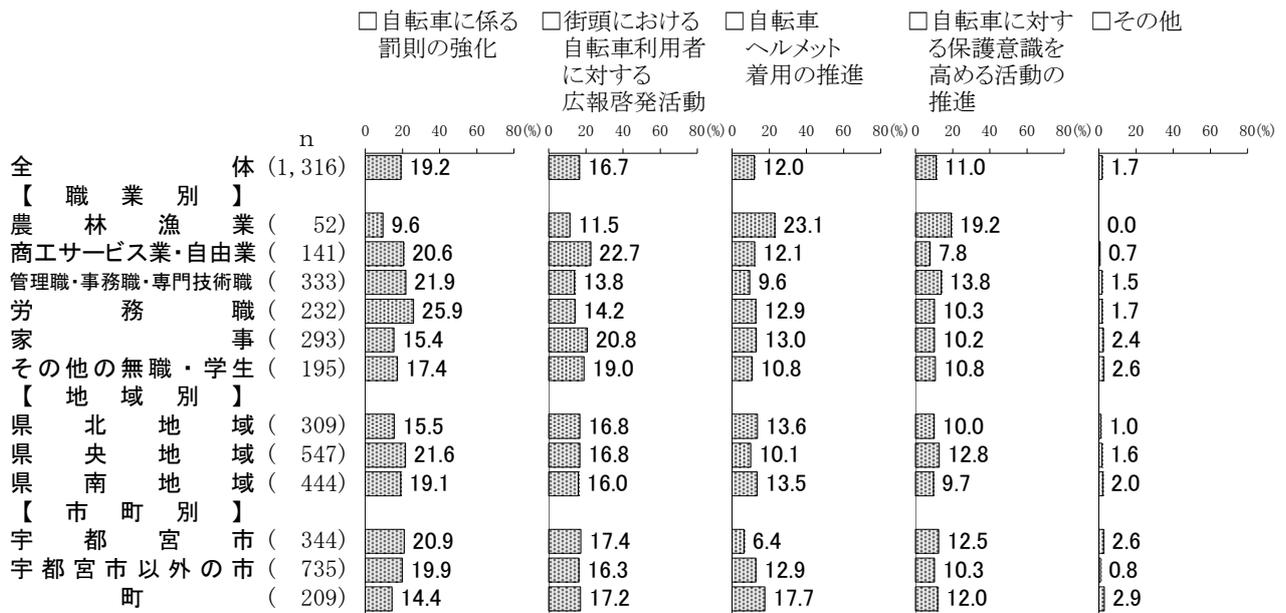
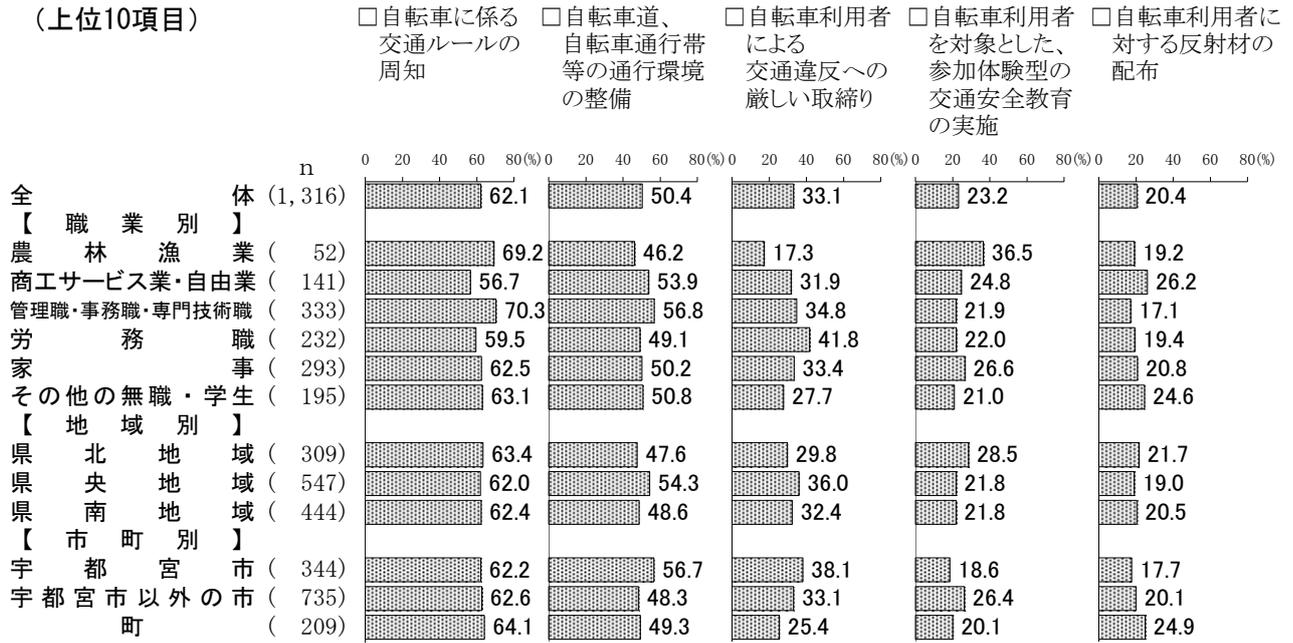


性別でみると、「自転車利用者による交通違反への厳しい取締り」では〈男性〉(37.9%)が〈女性〉(30.3%)より7.6ポイント高くなっている。「自転車利用者に対する反射材の配布」では〈女性〉(23.2%)が〈男性〉(18.1%)より5.1ポイント高くなっている。

性／年齢別でみると、「自転車道、自転車通行帯等の通行環境の整備」では〈女性40歳代〉が66.7%と高くなっている。「自転車利用者による交通違反への厳しい取締り」では〈男性20歳代〉が52.2%と高くなっている。

[職業別・地域別・市町別]

(上位10項目)



職業別でみると、「自転車利用者による交通違反への厳しい取締り」では〈労務職〉が41.8%と高くなっている。「自転車利用者を対象とした、参加体験型の交通安全教育の実施」では〈農林漁業〉が36.5%と高くなっている。

地域別でみると、「自転車道、自転車通行帯等の通行環境の整備」では〈県央地域〉が54.3%と高くなっている。「自転車利用者を対象とした、参加体験型の交通安全教育の実施」では〈県北地域〉が28.5%と高くなっている。

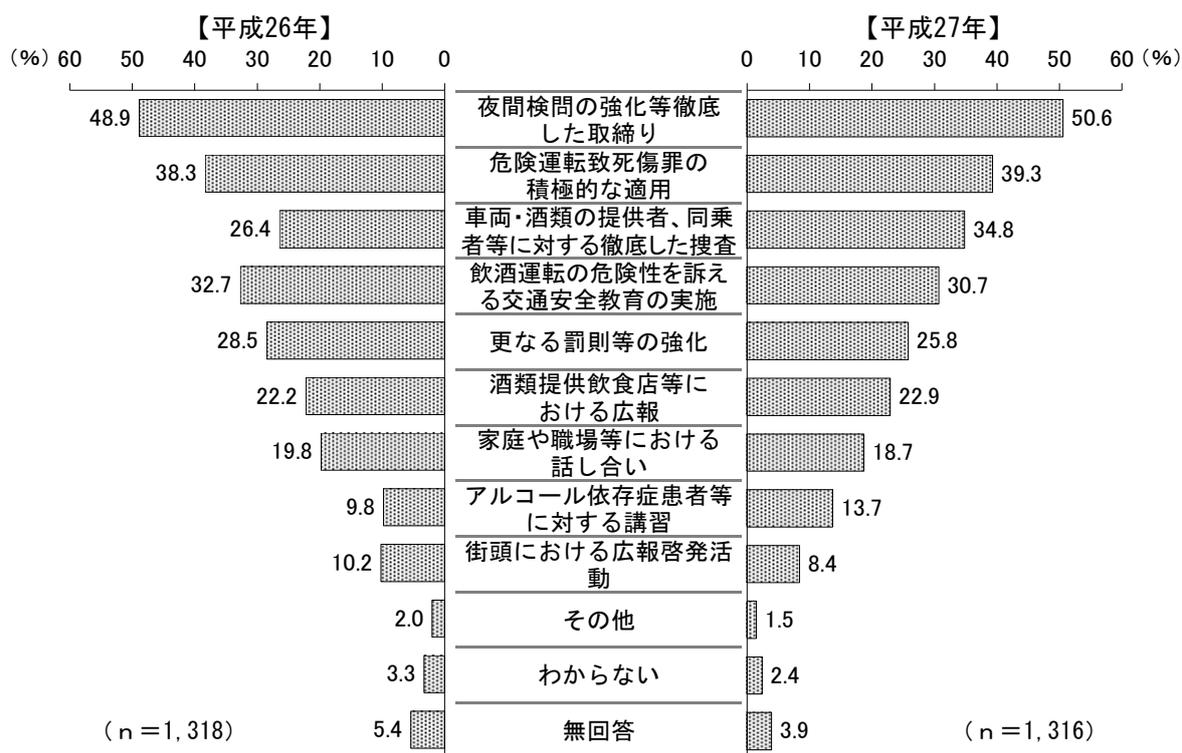
市町別でみると、「自転車道、自転車通行帯等の通行環境の整備」では〈宇都宮市〉が56.7%と高くなっている。「自転車利用者による交通違反への厳しい取締り」では〈宇都宮市〉が38.1%と高くなっている。

(8) 飲酒運転根絶のために必要な対策

問40 飲酒運転の罰則や行政処分が強化されましたが、依然として悪質な飲酒運転は後を絶ちません。飲酒運転を根絶するため、あなたはどのような対策が必要だと思いますか。次の中から3つまで選んでください。

[n=1,316]

1	夜間検問の強化等徹底した取締り	50.6%
2	車両・酒類の提供者、同乗者等に対する徹底した捜査	34.8
3	危険運転致死傷罪の積極的な適用	39.3
4	飲酒運転の危険性を訴える交通安全教育の実施	30.7
5	街頭における広報啓発活動	8.4
6	家庭や職場等における話し合い	18.7
7	酒類提供飲食店等における広報	22.9
8	アルコール依存症患者等に対する講習	13.7
9	更なる罰則等の強化	25.8
10	その他	1.5
11	わからない	2.4
	(無回答)	3.9

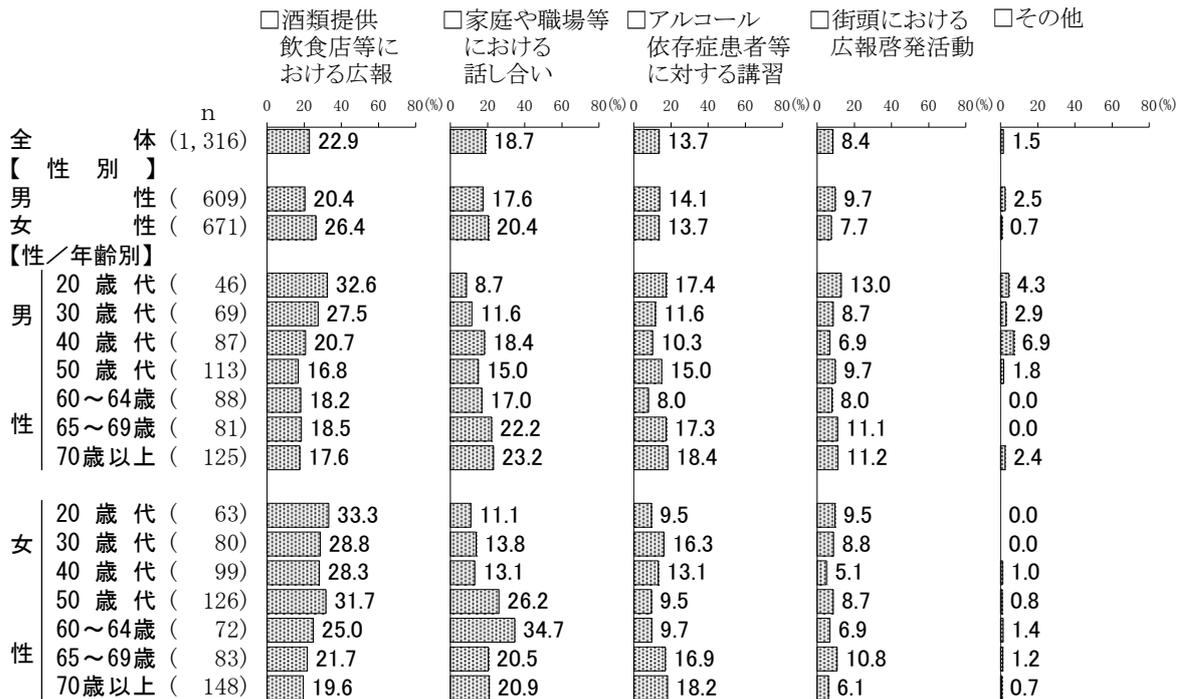
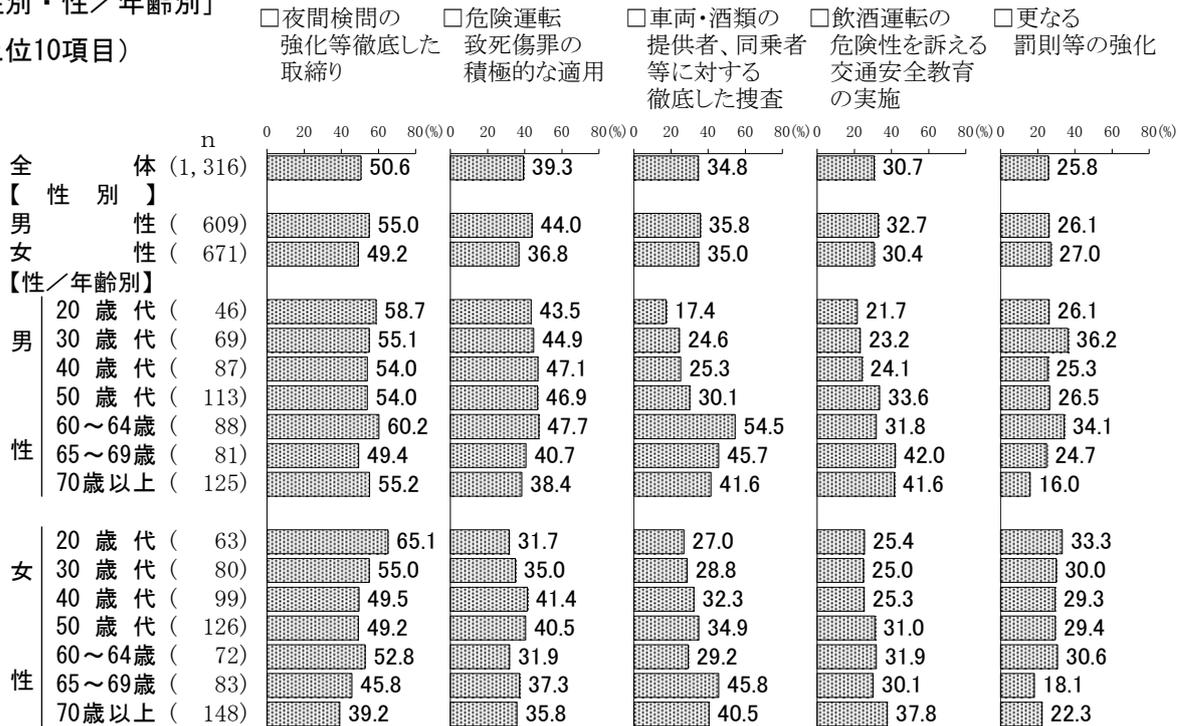


全体で見ると、「夜間検問の強化等徹底した取締り」(50.6%)がほぼ5割で最も高く、次いで「危険運転致死傷罪の積極的な適用」(39.3%)、「車両・酒類の提供者、同乗者等に対する徹底した捜査」(34.8%)、「飲酒運転の危険性を訴える交通安全教育の実施」(30.7%)の順となっている。

前回(平成26年)の調査結果と比較すると、「車両・酒類の提供者、同乗者等に対する徹底した捜査」が8.4ポイント、「アルコール依存症患者等に対する講習」が3.9ポイント、それぞれ増加している。

[性別・性/年齢別]

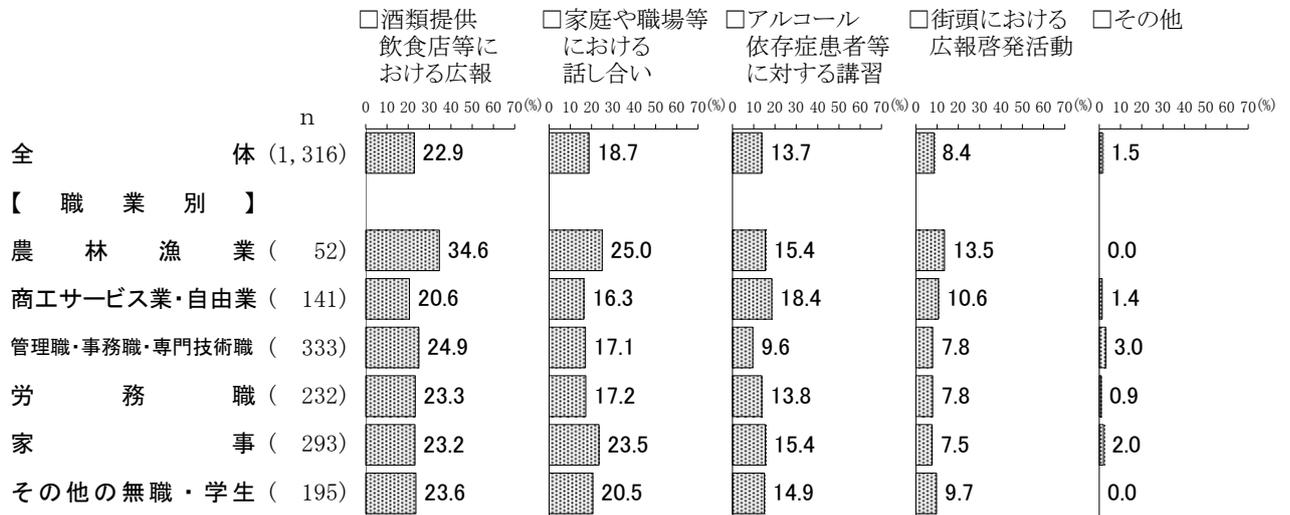
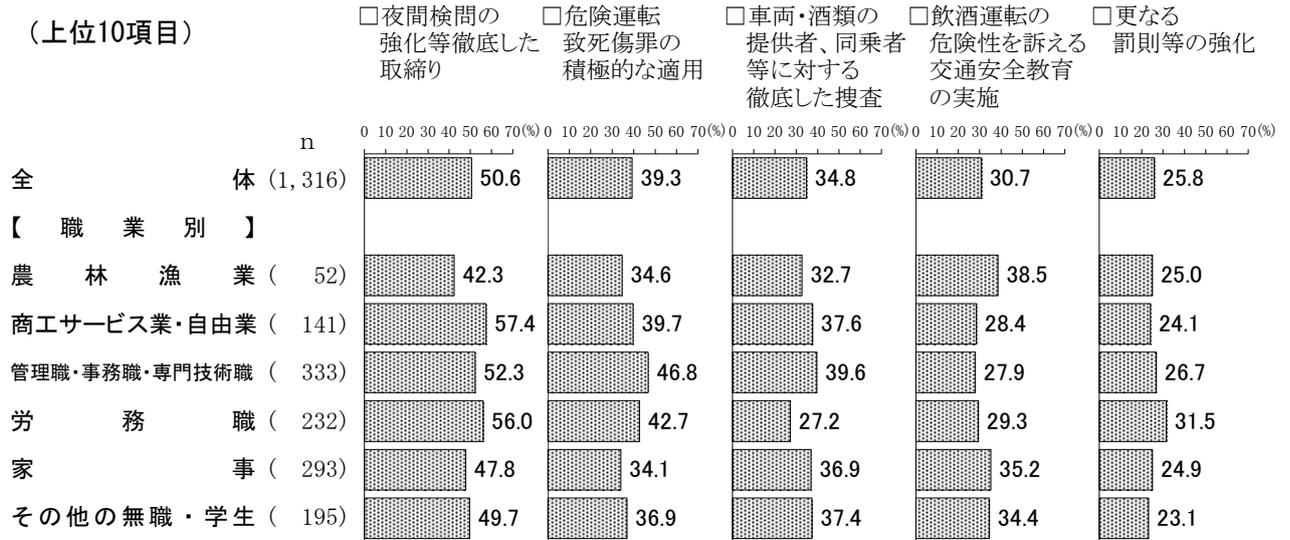
(上位10項目)



性別で見ると、「危険運転致死傷罪の積極的な適用」では〈男性〉(44.0%)が〈女性〉(36.8%)より7.2ポイント高くなっている。「酒類提供飲食店等における広報」では〈女性〉(26.4%)が〈男性〉(20.4%)より6.0ポイント高くなっている。

性/年齢別で見ると、「夜間検問の強化等徹底した取締り」では〈女性20歳代〉が65.1%と高くなっている。「車両・酒類の提供者、同乗者等に対する徹底した捜査」では〈男性60~64歳〉が54.5%と高くなっている。「飲酒運転の危険性を訴える交通安全教育の実施」では〈男性65~69歳〉が42.0%、〈男性70歳以上〉が41.6%と高くなっている。

[職業別]
(上位10項目)



職業別でみると、「危険運転致死傷罪の積極的な適用」では〈管理職・事務職・専門技術職〉が46.8%と高くなっている。「飲酒運転の危険性を訴える交通安全教育の実施」では〈農林漁業〉が38.5%と高くなっている。「酒類提供飲食店等における広報」では〈農林漁業〉が34.6%と高くなっている。